

ギガビット対応ブロードバンドルータ

NetGenesis® SuperOPT-GFive

MR-OPTG5

クイックスタートガイド ～インターネットへの接続について～

本書はインターネットサービスプロバイダへ接続するための基本的な設定と手順を中心に構成されています。

- クイックスタートガイド(本書)
 - 基本的な使用方法のみ説明しています。
- ユーザズマニュアル(CD-ROM収録)
 - NetGenesis SuperOPT-GFiveのルータ機能について説明しています。
- ハードウェア&HUBポート設定マニュアル(CD-ROM収録)
 - NetGenesis SuperOPT-GFiveのハードウェアやHUBポートの設定について説明しています。

以下の設定が必要な場合は、付属のCD-ROMに収録されている各マニュアルをWWWブラウザで参照して設定を行って下さい。(以下の内容は本書に記載されていません。)

- パソコンのIPアドレスを指定(固定)する場合(TCP/IP設定方法)
- ISPから付与された、複数のグローバルIPアドレスを使用する場合
(複数固定IPアドレス変換機能/アンナンバー機能)
- LAN内のWWWサーバーやFTPサーバーをWAN側へ公開する場合
- LAN内のパソコンでネットワークゲームを行う場合(ポートを空ける必要がある場合)
- NetGenesis SuperOPT-GFiveのLANポートIPアドレス(192.168.0.1)を変更する場合
- 既存のLANにNetGenesis SuperOPT-GFiveを導入する場合
- NetGenesis SuperOPT-GFiveのDHCPサーバーの設定を変更する、または停止する場合
- PPPoE接続時のセッションキープアラライブ機能の設定を変更する場合
- NetGenesis SuperOPT-GFiveの以下の機能を使用する場合
 - ・ローカルルータ機能
 - ・ファイアウォール機能
 - ・RIP機能
 - ・DMZホスト機能
 - ・MACアドレス変更機能(WANポート)
 - ・EasyDNS機能
- NetGenesis SuperOPT-GFiveのHUB機能(以下)を使用する場合
 - ・VLAN機能
 - ・QoS機能
 - ・速度制限機能
 - ・ブロードキャストストーム保護機能
 - ・ミラーリング機能
 - ・ポート設定機能(リンク速度の固定等)
- 各ポートのジャンボフレーム(MTU/MRU)の設定を行う場合

はじめに

このたびはブロードバンドルータ「NetGenesis® SuperOPT-GFive」をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。本製品を正しくお使い頂くために、本書及びCD-ROMに収録されている各マニュアルを良くお読み下さい。また、本書は保証書、CD-ROMとともに大切に保管して下さい。

以下の製品名等は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft® Windows® 98 Operating System , Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Microsoft® Windows® 2000 Operating System , Microsoft® Windows® XP Operating System
Microsoft® Internet Explorer , Microsoft® Outlook Express
Microsoft® Windows Messenger , Microsoft® MSN Messenger

Macintosh、Mac OS はアップルコンピュータ社の登録商標です。




その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

■本製品のご利用に当たって以下の項目をご了承下さい。

- (1) 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電等の外的要因によって通信等の機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失、及び誤った設定を行ったために生じた純粋経済損失、通信内容の漏洩による純粋経済損失や精神的損害につきまして、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。
- (2) 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが万一不審な点、記載漏れ等お気づきの点がありましたら、当社ユーザーサポートまでご連絡下さい。
- (3) 運用した結果につきましては、上記項目に関わらず一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。
- (4) 本書の一部または全部を無断転載することを固くお断りします。
- (5) 本書の内容は、予告無しに変更することがあります。

■本書中のマークについて

本製品を安全に正しく使用頂き、お客様や財産への損害を防ぐために、以下のマークの記されている内容を必ずお読み下さい。


 警告	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡あるいは重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示します。
 お願い	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮出来なかつたり、機能停止を招く内容を示します。

■本書中の表記について

- 以下の文字は非常に間違いやすいので注意して下さい。
半角数字「1」(イチ)と半角アルファベット小文字「l」(エル)、半角アルファベット大文字「I」(アイ)
半角数字「0」(ゼロ)と半角アルファベット小文字「o」(オー)、半角アルファベット大文字「O」(オー)
- 本書では一部の語句について略語表記している箇所があります。




本書での表記	正式な呼称
ISP	インターネットサービスプロバイダ
PC	パソコン、コンピュータ、端末等
Windows 98/Me/2000/XP	Microsoft® Windows® 98 Operating System Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System Microsoft® Windows® 2000 Operating System Microsoft® Windows® XP Operating System
Windows	上記 4 つのオペレーションシステムの総称
回線終端装置	ケーブルモデム / xDSL モデム / ONU / メディアコンバータ等




- 以下のマークが付いている箇所は本製品をお使い頂く上で必ず確認または注意して頂きたい項目です。



 確認	ここに記載されている内容を必ず確認・注意して下さい。
--	----------------------------


安全にお使い頂くために

本製品を安全にお使い頂くために、以降の内容を必ずお読み下さい。

ご使用にあたって	
 警告	<p>本製品は一般のオフィスや、家庭用OA機器として設計されております。人命に直接関わる医療機器や、極めて高い信頼性を要求されるシステム(幹線通信機器や電算機システム等)では、使用しないで下さい。</p>
	<p>本製品から発煙したり、異臭が発生した場合等、異常状態のまま使用すると火災、感電の原因となります。その際は本製品のDCアダプターをコンセントから外して、発煙しなくなる、もしくは異臭が消えたことを確認した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。 お客様による修理は大変危険ですので、絶対にお止め下さい。</p>
	<p>濡れた手でDCアダプターを抜き差ししないで下さい。 火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>DCアダプターのプラグにドライバ等の金属が触れないようにして下さい。 火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>AC100Vの家庭用・商用電源以外では使用しないで下さい。 火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>DCアダプターは必ず添付のものを使用して下さい。 異なるDCアダプターを使用すると、火災、感電、故障、動作不良の原因になります。</p>
	<p>DCアダプターのコードを傷つけたり、無理な力を加えたり、重いものを乗せないで下さい。 DCアダプターのコードが破損し、火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>DCアダプターのプラグとコンセントの間の埃は定期的(半年に1回程度)に取り除いて下さい。 そのまま放置すると火災の原因となります。</p>
	<p>DCアダプターを抜き差しするときは、必ずプラグを持って抜き差しを行って下さい。 DCアダプターのコードを無理に引っ張るとコードが破損し、火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>下記のような事故が発生したら、ただちに本体電源をOFFにし、DCアダプターをコンセントから外した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。 そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none">・本製品を落下させたり、強い衝撃を与えてしまった場合・本製品に水等の液体をかけてしまった場合・本製品の内部にクリップ等の金属片が入ってしまった場合
	<p>本製品やDCアダプターを開けて内部の部品に触れたり、改造したりしないで下さい。 高電圧のかかっている箇所があり、火災、感電、故障の原因となります。 また、分解・改造が行われた製品については、一切のサポート及び修理をお受けいたしません。</p>
	<p>近くで雷が発生しているときは本製品のDCアダプターをコンセントから外し本製品のWANポート、及びLANポートに接続されているケーブルを外してご使用を控えて下さい。 雷により火災、感電、故障が発生する恐れがあります。 また、落雷による故障については、保証期間内であっても有償修理となります。</p>
<p>本製品に各種ケーブルを抜き差しする場合、必ず本製品および他の機器の電源をOFFにしてから行って下さい。電源を入れたままケーブルの抜き差しを行うと感電、故障の原因となります。</p>	
 注意	<p>DCアダプターのコードを延長したり、テーブルタップや分岐コンセントを使用して、たこ足配線をしないで下さい。火災、感電の原因となります。</p>
	<p>本製品の上に乗らないで下さい。 特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。 本製品が破損し、ケガや感電の原因となります。</p>
 お願い	<p>本製品背面の各コネクタに異物を挿入しないで下さい。 感電、故障の原因となります。</p>
	<p>本製品が動作しているときは、本製品に接続されているケーブルに触れないで下さい。 ケーブルが外れたり動作が不安定になる等、誤動作の原因となります。</p>

使用環境	
 警告	本製品の近くに花瓶や植木鉢、化粧品、薬品や液体の入った容器、小さな金属等を置かないで下さい。これらの異物が本製品内部に混入した場合、火災、感電、故障の原因となります。
 注意	本製品を不安定な場所に設置したり、本製品の上にものを置かないで下さい。バランスが崩れて倒れたり落下して、ケガや本製品の故障の原因となります。
	本製品は屋内用として開発されております。屋外へ設置したり、屋外で使用しないで下さい。雨や埃等により故障、破損の原因となります。
	本製品を調理台の近く等、油飛びや湯気のアたるような場所、ゴミや埃の多い場所に設置しないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。
	本製品とDCアダプターを直射日光のアたる場所や、ストーブ、ヒーターの近く等、高温になりやすい場所および湿度の高い場所に設置しないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。
	本製品の動作中は本製品内部および外側が高温になることがあります。本製品の近くにビニール等、熱により熔けやすいものを置かないで下さい。また、本製品を他の機器と重ねて設置しないで下さい。変色、変形、故障の原因となります。
	本製品の通気孔をふさいだり重ねて設置しないで下さい。本製品内部に熱がこもり過熱故障、火災の原因となります。
	本製品を温度差の激しいところや結露するような場所へ設置しないで下さい。故障の原因となります。
	本製品を長期間ご使用にならないときは、電源をOFFにし、本製品に接続されている各種ケーブルを外して下さい。
	本製品を長期間無人で使用する際は、必ず定期的に保守/点検を行って下さい。
 お願い	本製品は磁気を帯びている場所や磁場の発生している場所(テレビ、ラジオ、電子レンジ、携帯電話等の近く)に設置しないで下さい。他の機器や本製品の動作に影響を及ぼすことがあります。

お手入れの際	
 警告	本製品の汚れを拭き取る際はベンジンやシンナー、アルコール等の薬品を使用しないで下さい。人体に有害な気体が発生したり、本製品が変色したり変形する原因となります。汚れを拭き取る際は、柔らかい布で軽く拭き取って下さい。
 注意	お手入れをするときは、電源をOFFにし、本製品に接続されている各種ケーブルを外して、安全な状態で行って下さい。

その他	
 注意	本製品は日本国内向けとして販売しております。本製品を海外で使用された場合、当社は一切その責任を負いません。(海外で使用された際のサポート、保守業務は行っておりません。)
	本製品は1つのIPアドレスで複数台のパソコンからインターネットへ接続することが可能です。しかし、ISPによっては接続するパソコン台数ごとに追加契約が必要となる場合があります。本製品をインターネットへ接続するために使用する場合、お客様の自己責任で行って下さい。当社はお客様とISPとの契約条件等については一切関知致しません。
	本製品の仕様及び外観については、改良のため予告無く変更することがあります。

もくじ

1. 製品の概要	1
1-1. NetGenesis SuperOPT-GFiveの特長	1
1-2. 付属品の確認	4
2. ルータの設置	5
2-1. 設置前に確認すること	5
2-2. 各部の説明	8
2-3. 各機器との接続	9
2-4. インターネットへ接続するための設定手順について	10
3. パソコンの設定	14
3-1. Windows 98/Me(TCP/IP)の設定	14
3-2. Windows 2000(TCP/IP)の設定	16
3-3. Windows XP(TCP/IP)の設定	18
3-4. Mac OS 9.x(TCP/IP)の設定	20
3-5. Mac OS X 10.0.x ~ 10.2.8(TCP/IP)の設定	21
3-6. Mac OS X 10.3.5(TCP/IP)の設定	22
3-7. ソフトウェアの設定	23
3-7-1. WWWブラウザの設定	23
3-7-2. メールソフトウェアの設定(Windows環境のみ)	26
4. ルータの設定	27
4-1. 設定画面へのログオン	27
4-2. WANポートの設定	29
4-2-1. フレッツ(PPPoE)簡単設定(フレッツ・ADSL、Bフレッツ、TEPCOひかり、eoホームファイバー等)	29
4-2-2. DHCPクライアント機能を使う(CATV、Yahoo!BB等)	31
4-2-3. IPアドレスを固定する(CATV、IPアドレス指定のISP等)	33
4-3. 設定の更新	36
5. 付録	38
5-1. ファームウェアバージョン情報とMACアドレスの確認方法	38
5-2. SYSLOG機能の使用方法	39
5-2-1. SYSLOGの表示	39
5-2-2. SYSLOG表示例	40
5-3. ISPから自動取得したIPアドレスの確認方法	41
5-4. UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)機能の使用方法	42
5-4-1. NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定	42
5-4-2. Windows MeでUPnP機能を使用する	43
5-4-3. Windows XPでUPnP機能を使用する	46
5-5. PPPoEマルチセッション機能の設定例	51
5-5-1. PPPoEセッション2の設定	51
5-5-2. スタティックルーティングの設定	55
5-5-3. PPPoEポートの制御	57
5-6. 困ったときは(Q&A)	58
5-7. ユーザーサポートについて	66

1. 製品の概要

1-1. NetGenesis SuperOPT-GFive の特長

NetGenesis SuperOPT-GFive(以下「本機」と称します)には次の特長があります。

WANポートの機能

●複数台のパソコンからインターネット接続が可能

IPアドレス変換機能により、LAN内に接続されている複数のパソコンから、同時にインターネットへ接続することが可能です。また、このIPアドレス変換機能により、本機のLAN内のIPアドレスへはWAN(インターネット)側から直接アクセスできなくなりますので、セキュリティの面でも有効です。

●DHCPクライアント機能

DHCPクライアント機能により、ISPからグローバルIPアドレス等を自動取得することが可能です。(ISP側がDHCPサーバーによって、IPアドレス等を付与している場合のみ。)

●PPPoE(PPP over Ethernet)クライアント機能

PPPoEクライアント機能により、PPPoE接続を必要とする「フレッツ・ADSL」や「Bフレッツ」等へ接続することが可能です。また、PPPoE接続する際に必要なソフトウェア(「フレッツ接続ツール」等)を、LAN内の各パソコンへインストールする必要があります。

●PPPoEマルチセッション機能

PPPoEマルチセッション機能により、同時に2箇所へのPPPoE接続を行うことができます。この機能により、「フレッツ・ADSL」や「Bフレッツ」で、インターネットとフレッツスクウェアへ同時に接続する」等が可能となります。

●複数固定IPアドレス変換(NAT/IPマスカレード)機能 ※

ISPから取得した、複数の固定IPアドレスをNAT/IPマスカレード変換することにより、固定IPアドレスの個数以上のパソコンから、インターネットへ接続することが可能です。

●アンナンバード(unnumbered)機能 ※

WAN側をアンナンバード(unnumbered)として、ISPから取得した複数の固定グローバルIPアドレスを、LAN内で使用することが可能です。

●MACアドレス変更機能 ※

本機のWANポート側のMACアドレス(物理アドレス)を変更することが可能です。この機能により、MACアドレスの登録を必要とするCATV局や、MACアドレス記憶型のケーブルモデムに柔軟に対応することが可能です。

●MTU値変更機能 ※

PPPoEクライアント接続機能使用時に、MTU値(1回の送信で送ることのできる最大データサイズ)を変更することが可能です。

●ローカルルータ機能 ※

IPアドレス変換機能をOFFにすることにより、ローカルルータとして使用することが可能です。(2つの異なるネットワークを接続するルータとして使用することが可能です。)

●PPTP変換機能/IPSecパストルー機能 ※

ルータを介したVPNネットワークを構築することが可能です。

LANポートの機能(1)

●UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)機能

MSN MessengerやWindows Messenger等のUPnP対応ソフトウェアや、NTT社のIP電話用VoIPアダプタ等、UPnP対応機器を使用することが可能です。

●DHCPサーバー機能 ※

本機に接続されている各パソコン等へ自動的にネットワークの設定を行います。各パソコンに必要なとなるTCP/IP設定を、本機より自動取得することが可能です。(WindowsやMac OS等、DHCPクライアント機能を搭載したオペレーティングシステムが必要です。)

●SNTPクライアント/サーバー機能 ※

インターネット(またはLAN)上のSNTP/NTPサーバーを利用し本機の時刻を調整します。また、本機がSNTPサーバーとして機能することにより、SNTPクライアント(パソコン等)に、時刻情報を与えることも可能です。

●ファイアウォール(IPフィルタ)機能 ※

IPパケットのフィルタリングにより、LAN内部のコンピュータ資源を保護します。

●RIP機能 ※

RIP対応機器と経路情報を送受信することにより、動的に通信経路を変更することが可能です。

LANポートの機能(2)

●SYSLOG機能 ※

システムで発生した情報等を、システムのメッセージとして本機に接続したパソコンに表示 / 記録することが可能です。

●ProxyDNS機能

本機がDNS サーバーの代理応答を行います。

パソコンのTCP/IP設定で、DNSサーバー IPアドレスとして本機のLANポートIPアドレスを設定することにより、ISP側のDNSサーバー IPアドレスが変更された場合でも、本機の設定変更のみで対応可能となります。

(パソコンのDNSサーバーの設定を変更する必要はありません。)

また、この機能を使用することにより、本機のEasyDNS機能を使用することが可能となります。

●EasyDNS機能 ※

頻繁に使用するホスト名とIPアドレスを本機に登録することにより、本機を簡易DNSサーバーとして使用することが可能です。(ProxyDNS機能を使用しない場合は、本機能は使用できません。)

HUB機能

●QoS機能 ※

任意の通信を優先させることが可能です。

この設定により、外部公開用サーバーの通信を優先させることや、特定のパソコンの通信を優先させること、IP電話の通信帯域を確保すること等が可能となります。

●速度制限機能 ※

各LANポートの送受信速度に制限を設けることが可能です。

●ポートベースVLAN機能 ※

通信を許可するLANポートをグループ化し、異なるグループとの通信を遮断することが可能です。

この機能により、プライバシー侵害やウイルス・ワーム等の2次感染を予防することが可能になります。

●ブロードキャストストーム保護機能 ※

ブロードキャストストームによるネットワーク障害から、ネットワークを保護することが可能です。

●ミラーリング機能 ※

任意のLANポートのミラーリングポートを設定することが可能です。

この機能により、設定したポートの通信をモニタリングすることが可能です。

サーバー公開やネットワークゲームに対応するための機能

●静的IPマスカレード機能(IPマスカレードテーブル) ※

WAN(インターネット)側から発信されたIPフレームを、プロトコルやポート番号に応じてLAN内の特定のIPアドレスへ転送することが可能です。

●DMZホスト機能 ※

WAN(インターネット)側から発信された全てのIPフレームを、LAN内の特定のIPアドレスへ転送することが可能です。

ハードウェアの機能

●ギガビットイーサネットに対応

1000Mbps/100Mbps/10Mbpsに対応したイーサネットポートをLAN側に4ポート、WAN側に1ポート備えています。

●Auto MDI/MDI-Xに対応(1000Base-T Master/Slave対応)

WANポート/LANポートともストレート/クロスケーブルの種別を意識することなく、配線を行うことが可能です。

(固定設定も可能)

●通信速度認識の手動設定に対応 ※

WANポート/LANポートの通信速度(10/100Mbps 全二重/半二重、1000Mbps 全二重)を手動で設定することが可能です。

(工場出荷時は自動設定)

●フラッシュROM搭載

専用の機器を使用しなくても消去 / 書き込みが可能なフラッシュROMを搭載しています。

ファームウェア(本機のコントロールを行う内部プログラム)をフラッシュROMへ置くことにより、今後ファームウェアのバージョンアップが必要となった際に、容易にバージョンアップを行うことが可能です。

その他の機能

●ジャンボフレーム対応 ※

受信最大 13KB (MRU) / 送信最大 7KB (MTU) のジャンボフレームに対応しています。
ギガビット LAN の通信効率を向上させることが可能です。
(ジャンボフレームを使用する場合、通信経路上の全ての機器がジャンボフレームに対応している必要があります。)

●パスワード機能(管理者 ID とユーザー ID) ※

管理者 ID、ユーザー ID とそれぞれのパスワードを設定することにより、本機の設定情報を保護することが可能です。

●WWWブラウザ設定対応

WWWブラウザより本機の設定を行うことが可能です。

確認

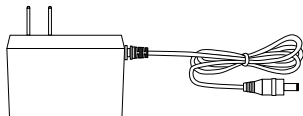
※印が記載されている機能については、本書では解説していません。
これらの設定が必要な場合は、付属の CD-ROM に収録されている各マニュアルを参照して設定して下さい。

1-2. 付属品の確認

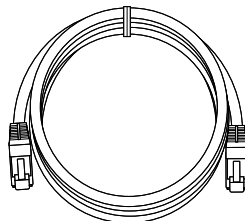
梱包内容に以下の品目が揃っているか確認して下さい。

- 本体
- DCアダプター(図1)
- カテゴリ5e ツイストペアストレートケーブル(図2)
- クイックスタートガイド(本書)
- CD-ROM(マニュアル)
- 保証書

● 図1 DCアダプター



● 図2 カテゴリ5e ツイストペアケーブル



確認 梱包箱および梱包材は大切に保管し、長期保存する場合等に使用して下さい。

2. ルータの設置

2-1. 設置前に確認すること

設置前に以下の項目を確認して下さい。

●回線接続(開通)の確認

NetGenesis SuperOPT-GFiveを設置する前に、回線終端装置をパソコンに直接接続して、インターネットへ接続できることを確認して下さい。

(NetGenesis SuperOPT-GFiveを使用しない状態で、インターネットへ接続できるか確認して下さい。)

接続できない場合は、回線接続業者等にご相談下さい。

●PPPoEソフトウェアについての注意

パソコンに「PPPoEソフトウェア」(フレッツ接続ツール等)をインストールしている場合、NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定を行う前に必ずアンインストールして下さい。

確認

アンインストールを行う前に、必ず回線の切断を行って下さい。

アンインストール方法等については、「PPPoEソフトウェア」のマニュアルやヘルプ等を参照して下さい。

●NetGenesis SuperOPT-GFiveに複数台のパソコンを接続する場合

NetGenesis SuperOPT-GFiveに複数台のパソコンを接続する場合は、最初に1台のパソコンのみを接続し、すべての設定が完了してインターネットへ接続できることを確認してから、他のパソコンを接続して下さい。

●ルータタイプのADSLモデム使用時の注意

プロバイダから提供されたADSLモデムにルータ機能が搭載されている場合(以降、ADSLモデムルータと呼びます) ADSLモデムルータの設定によっては、NetGenesis SuperOPT-GFiveのLANポートIPアドレスの変更が必要になります。

■ADSLモデムルータをブリッジモードで動作させる場合

NetGenesis SuperOPT-GFiveのLANポートIPアドレスを変更する必要はありません。

本書に沿って設定を進めて下さい。

※ブリッジモードで動作させる方法等は、ADSLモデムルータのマニュアル等を参照して下さい。

■ADSLモデムルータをルータモードで動作させる場合

ADSLモデムルータのLAN側プライベートネットワークアドレスを確認して下さい。

(確認方法についてはADSLモデムルータのマニュアル等を参照して下さい。)

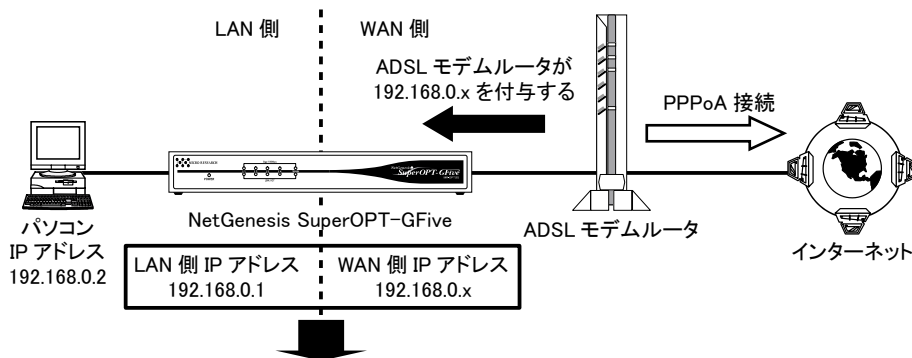
◆ADSLモデムルータのLAN側プライベートネットワークアドレスが 192.168.0.x (x = 1~254) 以外の場合

→NetGenesis SuperOPT-GFiveのLANポートIPアドレスの変更は必要ありません。

本書に沿って設定を進めて下さい。

◆ADSLモデムルータのLAN側プライベートネットワークアドレスが 192.168.0.x (x = 1~254) の場合

→NetGenesis SuperOPT-GFiveのLANポートIPアドレス(工場出荷値: 192.168.0.1)とWANポート(DHCPクライアント機能)が自動取得するIPアドレスが同一ネットワークになってしまうため、インターネットへ接続することができません。



NetGenesis SuperOPT-GFiveのWAN側とLAN側のIPアドレスがともに「192.168.0.x」(同一ネットワーク)のため、LAN側のパソコンからインターネット接続できない。

このような場合は、付属のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)の「1-2 接続を行う前に確認すること」をWWWブラウザで参照して以下の設定を行って下さい。

- NetGenesis SuperOPT-GFiveのLANポートIPアドレスを192.168.0.x以外(192.168.100.1等)に変更する。
- 変更したNetGenesis SuperOPT-GFiveのLANポートIPアドレスに合わせて、DHCPサーバー機能の設定を変更する。

● MACアドレス記憶型のケーブルモデムについて(一部のCATV等)

ケーブルモデムの中には、接続されているネットワーク機器のMACアドレス(物理アドレス)を記憶する機種があります。それらを使用している場合、NetGenesis SuperOPT-GFiveを導入する前に使用していたイーサネットボードやルータ等のMACアドレスを記憶しているため、NetGenesis SuperOPT-GFiveを接続しても正常に通信を行うことができません。その場合は、ケーブルモデムの電源を30分程度OFFにして、ケーブルモデムが記憶しているMACアドレスを消去するか、NetGenesis SuperOPT-GFiveのMACアドレス変更機能を使用して対処して下さい。

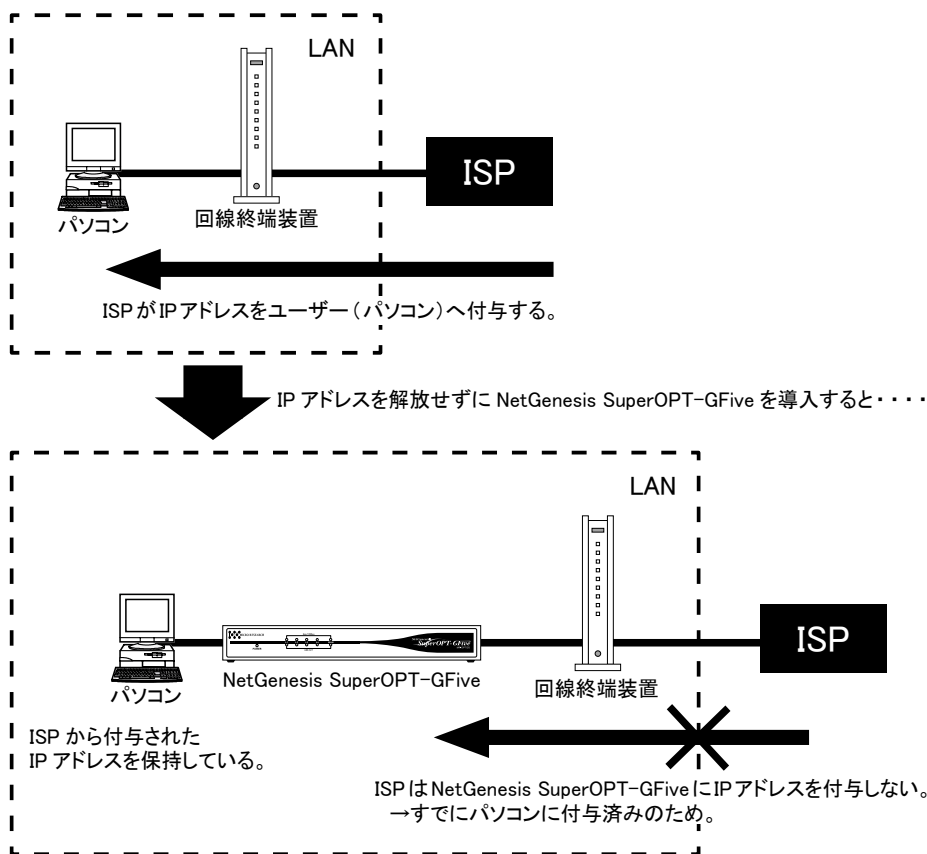
確認	ケーブルモデムが記憶しているMACアドレスが消去されるまでの時間は、ケーブルモデムの機種により異なります。MACアドレス変更機能の使用方法については、付属のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)をWWWブラウザで参照して下さい。
-----------	---

● IPアドレスの解放について(一部のCATVやYahoo!BB等)

ISPからIPアドレスを自動取得してインターネットへ接続している場合、NetGenesis SuperOPT-GFiveを導入する前に回線終端装置と接続しているパソコン(もしくはルータ)のIPアドレスを解放する(ISPへ返す)必要があります。

確認	フレッツ・ADSLやBフレッツ、TEPCOひかりやeoホームファイバー等、PPPoE接続を行う場合は、IPアドレスの解放をする必要はありません。
-----------	--

IPアドレスを自動付与するISPでは「1ユーザー=1つのIPアドレス」となるため、パソコンがISPからIPアドレスを取得したままの状態では、NetGenesis SuperOPT-GFiveのWANポートがIPアドレスを自動取得することはできません。



WindowsでパソコンのIPアドレスを解放する方法について次ページを参照して下さい。

確認	Mac OSの場合、パソコン側からIPアドレスを解放することができないため、ISP側のリース期限(IPアドレスの付与時間)が満了となるまで、ISPから取得したIPアドレスは解放されません。パソコンの電源をOFFにして、しばらく時間をおいてからNetGenesis SuperOPT-GFiveとパソコンを接続して下さい。IPアドレスの解放は、必ずNetGenesis SuperOPT-GFiveとパソコンを接続する前に行ってください。
-----------	--

● Windows 98/Me で IP アドレスを解放する

以下の手順で IP アドレスの解放を行って下さい。

- ① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] と順番にクリックして下さい。
- ② [名前] 欄に、「winipcfg」と入力して [OK] ボタンをクリックして下さい。
- ③ 以下の画面が表示されます。
[IP アドレス] 欄に値が表示されていることを確認し、[解放] ボタンをクリックして下さい。



- ④ [IP アドレス] 欄が、「0.0.0.0」に変わったことを確認して下さい。



- ⑤ [OK] ボタンをクリックし、「IP 設定」画面を閉じて下さい。

以上で IP アドレスの解放は完了です。

● Windows 2000/XP で IP アドレスを解放する方法

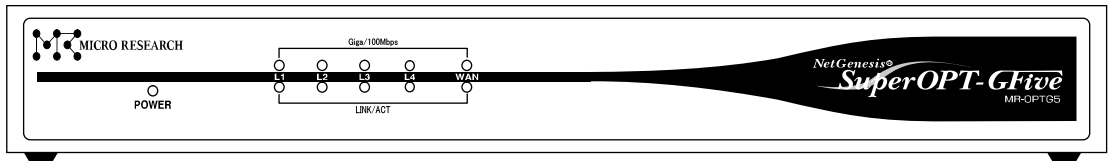
以下の手順で IP アドレスの解放を行って下さい。

- ① [スタート] → [プログラム] ※ → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] と順番にクリックして下さい。
※ Windows XP の場合 [すべてのプログラム] と表示されます。
 - ② 「コマンドプロンプト」画面が表示されます。
 - ③ 「ipconfig」と入力して「Enter」キーを押して下さい。
「IP Address」欄に値が表示されていることを確認して下さい。
 - ④ 「ipconfig /release」と入力して「Enter」キーを押して下さい。
※ 「ipconfig」と「/release」の間に半角スペースを入れて下さい。
「IP address successfully released.....」と表示されたことを確認して下さい。
 - ⑤ 再度「ipconfig」と入力して「Enter」キーを押して下さい。
 - ⑥ [IP Address] 欄が「0.0.0.0」になったことを確認して、「コマンドプロンプト」画面は [×] ボタンをクリックする等して閉じて下さい。
- 以上で IP アドレスの解放は完了です。

2-2. 各部の説明

本体各部の説明をします。

●正面



●正面(モニタランプ)

POWER : NetGenesis SuperOPT-GFiveの電源がONのときに点灯します。

LINK/ACT : 各ポートの状態を表します。

点灯 = リンク確立中
点滅 = データ通信中
消灯 = リンク未確立

Giga/100Mbps : 各ポートの通信速度を表します。

オレンジで点灯 = 1000Mbps
グリーンで点灯 = 100Mbps
消灯 = 10Mbps

確認

NetGenesis SuperOPT-GFiveの電源投入時及び再起動時は、起動が完了するまでPOWERランプが約1分間点滅します。
POWERランプが点灯状態になると起動完了です。

●背面



●背面(コネクタ)

POWER : NetGenesis SuperOPT-GFiveの電源をOFF/ONするスイッチです。

9VDC : DCアダプター用コネクタです。付属のDCアダプターを接続します。(＃1)

WAN : WANポートです。回線終端装置と接続します。(＃2)

※USBタイプの回線終端装置は接続できません。

RESET : NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定内容を工場出荷値に戻すためのボタンです。(＃3)

L1 ~ L4 : LANポート1 ~ 4です。パソコンやHUB等と接続します。(＃2)

《＃1 ~ ＃3について》

(＃1): 付属のNetGenesis SuperOPT-GFive専用DCアダプターを使用して下さい。

専用DCアダプター以外を使用すると、動作不良や故障の原因となります。

※DCアダプターを接続するときは、確実に差し込んで下さい。

DCアダプターが接触不良を起こした状態で使用すると、動作不良や故障の原因となります。

(＃2): 通信速度(10/100/1000Mbps)の設定はオートネゴシエーションによって自動的に設定されます。

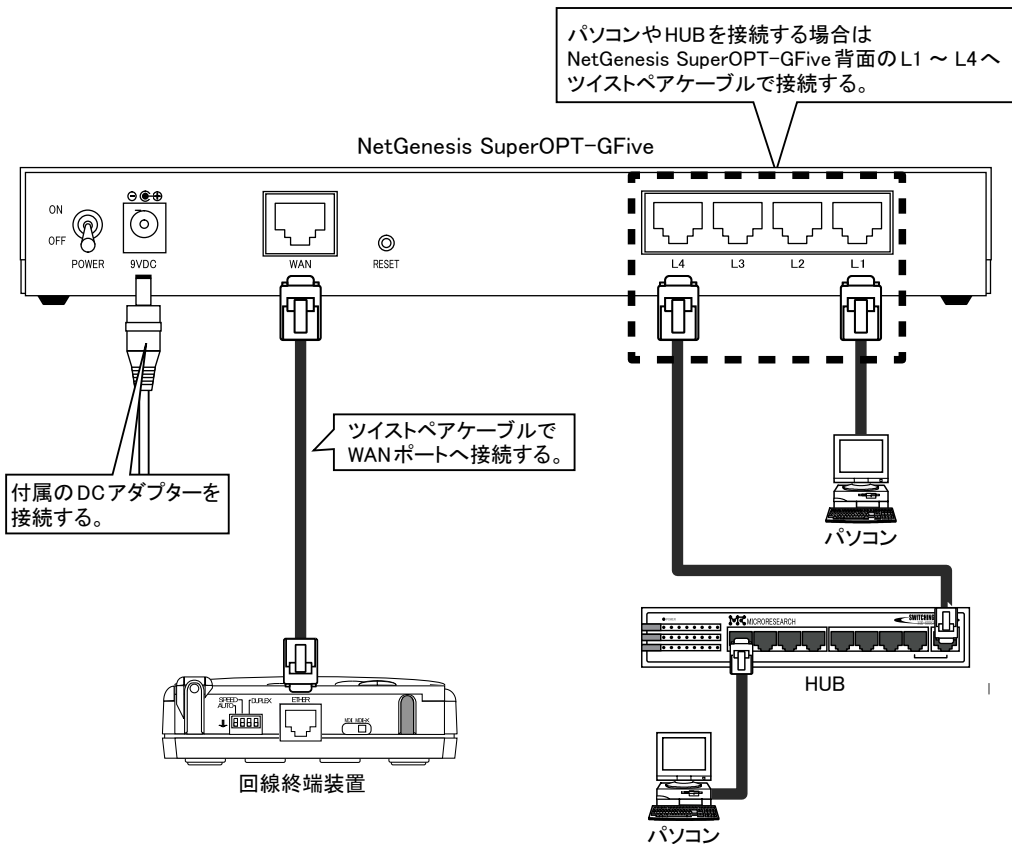
※1000Mbpsで通信を行う場合は、カテゴリ5eかカテゴリ6のツイストペアケーブルで接続して下さい。

(＃3): 細い棒等を使ってRESETボタンを押しながら、電源をOFF→ONすることにより、工場出荷値に戻ります。

(RESETボタンは電源ON後、10秒以上押し続けて下さい。)

2-3. 各機器との接続

NetGenesis SuperOPT-GFiveと各機器の接続について説明します。
以下の接続にしたがって、各機器を接続して下さい。



各機器との接続が完了しましたら NetGenesis SuperOPT-GFive の電源を ON にした後、パソコンの電源を ON にして下さい。

確認

100Mbps で通信を行う場合は、カテゴリ 5e かカテゴリ 6 のツイストペアケーブルで接続して下さい。
NetGenesis SuperOPT-GFive に USB タイプの回線終端装置を接続することはできません。
NetGenesis SuperOPT-GFive の L1 ~ L4 ポート及び WAN ポートは、ツイストペアケーブルのストレート/クロスを自動的に判別し、切り替えを行います。
回線終端装置に通信速度の切り替えスイッチが付いている場合は、Auto モード(オートネゴシエーション有効)に設定して下さい。 詳しくは回線終端装置のマニュアルを参照して下さい。
LAN 内に複数の NetGenesis を設置する場合は、添付の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を WWW ブラウザで参照して設定を行って下さい。 (NetGenesis SuperOPT-GFive の LAN ポート IP アドレスや DHCP サーバーの設定変更が必要です。)
NetGenesis SuperOPT-GFive に複数台のパソコンを接続する場合は、最初に 1 台のパソコンのみを接続し、すべての設定が完了してインターネットへ接続できることを確認してから、他のパソコンを接続して下さい。

2-4. インターネットへ接続するための設定手順について

本書で説明する設定では、NetGenesis SuperOPT-GFive の DHCP サーバー機能を使用します。
この機能により、複数のパソコンを設定する場合等の手間や設定ミスを大幅に減らすことができます。

◆ DHCP サーバーの工場出荷値の設定について

NetGenesis SuperOPT-GFive の DHCP サーバー設定は工場出荷設定時、以下のようになっています。

DHCPサーバー機能を使用する	
先頭IPアドレス/サブネット	192.168.0.2/24 サブネットについて
付与IPアドレス数	253 (最大253個)
ゲートウェイ	192.168.0.1
<input type="checkbox"/> WAN側から取得したDNS情報を優先する	
PPPoE接続時は <input type="button" value="PPPoEセッション1"/> を使用する	
プライマリDNS	192.168.0.1
セカンダリDNS	
サードDNS	
フォースDNS	
<input checked="" type="checkbox"/> WAN側から取得したドメイン名を優先する	
ドメイン名	
<input checked="" type="checkbox"/> WAN側から取得したリース期限を優先する	
リース期限(時間:分:秒)	24:00:00
◆ 「00:15:00」(15分)以下の時間は設定できません。	

- ① DHCPサーバー機能を使用する
→チェック有り。(使用する。)
- ② 先頭IPアドレス/サブネット
→「192.168.0.2」から「192.168.0.3」、「192.168.0.4」・・・と順番に付与します。
サブネットマスクは「255.255.255.0」を付与します。
- ③ 付与IPアドレス数
→「192.168.0.2」から順番に253個のIPアドレスを付与します。
- ④ ゲートウェイ
→「192.168.0.1 (NetGenesis SuperOPT-GFive の LANポートIPアドレス)」を付与します。
- ⑤ WAN側から取得したDNS情報を優先する
→チェック無し。(優先しない。)
WAN側 (ISP) からDNS情報の自動取得に成功しても、パソコン側へは付与しません。
PPPoE マルチセッション機能を使用する場合は、必ず「チェック無し」(優先しない)のまま使用して下さい。
- ⑥ プライマリ～フォースDNS
→プライマリDNSとして「192.168.0.1 (NetGenesis SuperOPT-GFive の LANポートIPアドレス)」を付与します。
セカンダリ～フォースDNSは付与しません。
- ⑦ WAN側から取得したドメイン名を優先する
→チェック有り。(優先する。)
WAN側 (ISP) からドメイン名の自動取得に成功した場合、そのドメイン名をパソコン側へ付与します。
- ⑧ ドメイン名
→空欄。(指定無し。)
- ⑨ WAN側から取得したリース期限を優先する
→チェック有り。(優先する。)
WAN側 (ISP) からリース期限の自動取得に成功した場合、そのリース期限をパソコン側へ付与します。
- ⑩ リース期限
→24時間。

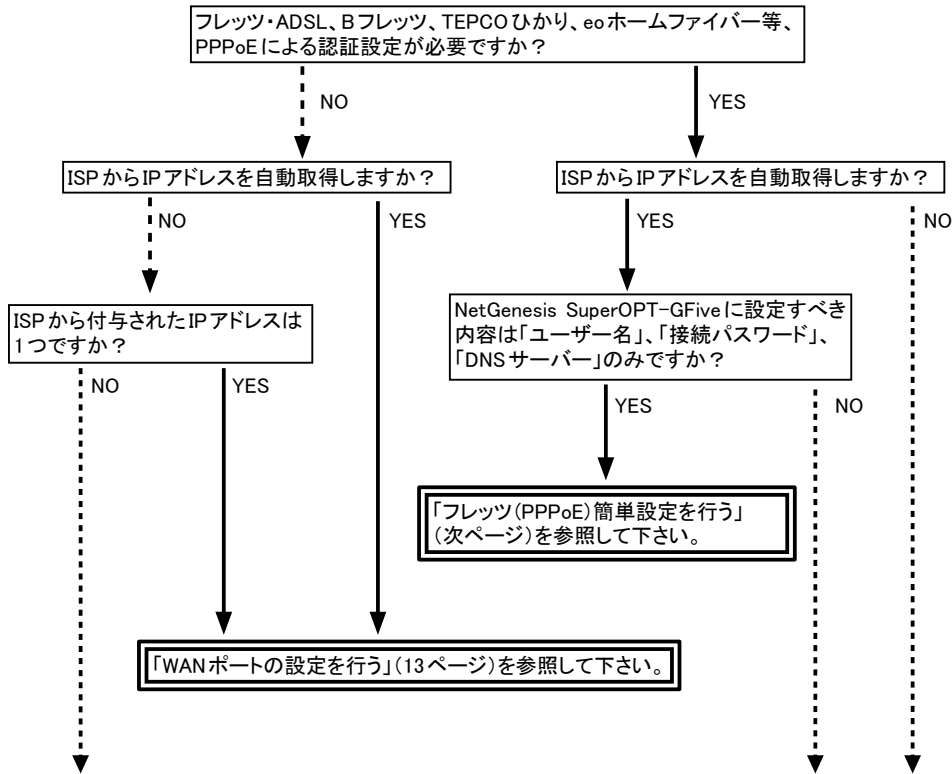
確認

NetGenesis SuperOPT-GFive の DHCP サーバーの設定値を変更する場合や、DHCP サーバー機能を使用しない場合の設定については付属の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を WWW ブラウザで参照して設定を行って下さい。

<次ページへ進んで下さい>

◆ NetGenesis SuperOPT-GFive の設定方法について

NetGenesis SuperOPT-GFive の設定手順については、以下のフローチャート図を参照して下さい。



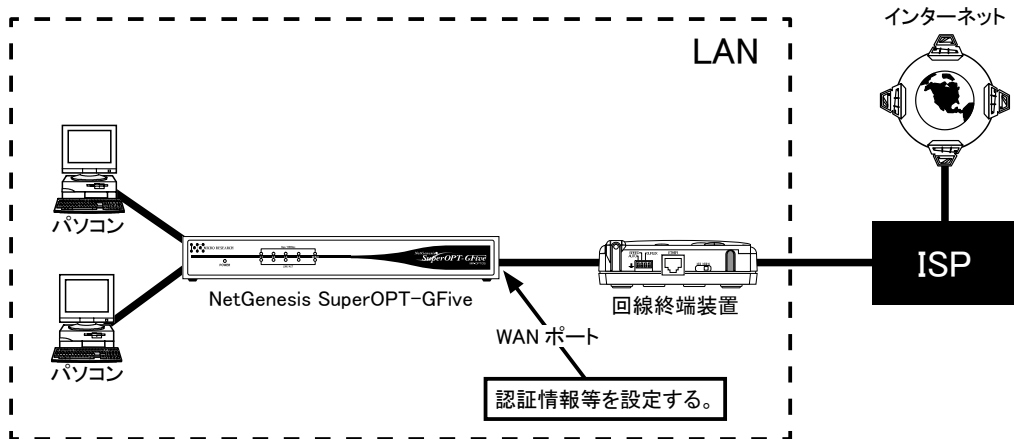
以下の設定は本書では解説していません。
添付のCD-ROMに収録されている各マニュアルを参照して設定を行って下さい。

- PPPoEクライアント機能を使用する場合で、1個の固定IPアドレスを使用する場合
- ISPから付与された複数の固定IPアドレスを使用する場合
- PPPoEクライアント機能で以下の設定を変更する場合
 - ・MTU値の変更
 - ・セッションキープアライブ機能の設定
 - ・接続方法の設定(常時接続/手動接続/自動接続)
- WANポートの以下の機能を使用、もしくは設定値を変更する場合
 - ・MACアドレス変更機能
 - ・IPマスカレードテーブルの設定やDMZホスト機能の設定
(LAN内のサーバー公開やネットワーク対戦ゲームを行う場合の設定)
- HUBポート機能(以下の機能)を使用する場合
 - ・VLAN機能
 - ・QoS機能
 - ・速度制限機能
 - ・ブロードキャストストーム保護機能
 - ・ミラーリング機能
 - ・ポート設定(リンク速度固定等)
- ジャンボフレーム(MTU/MRU)の設定を行う場合

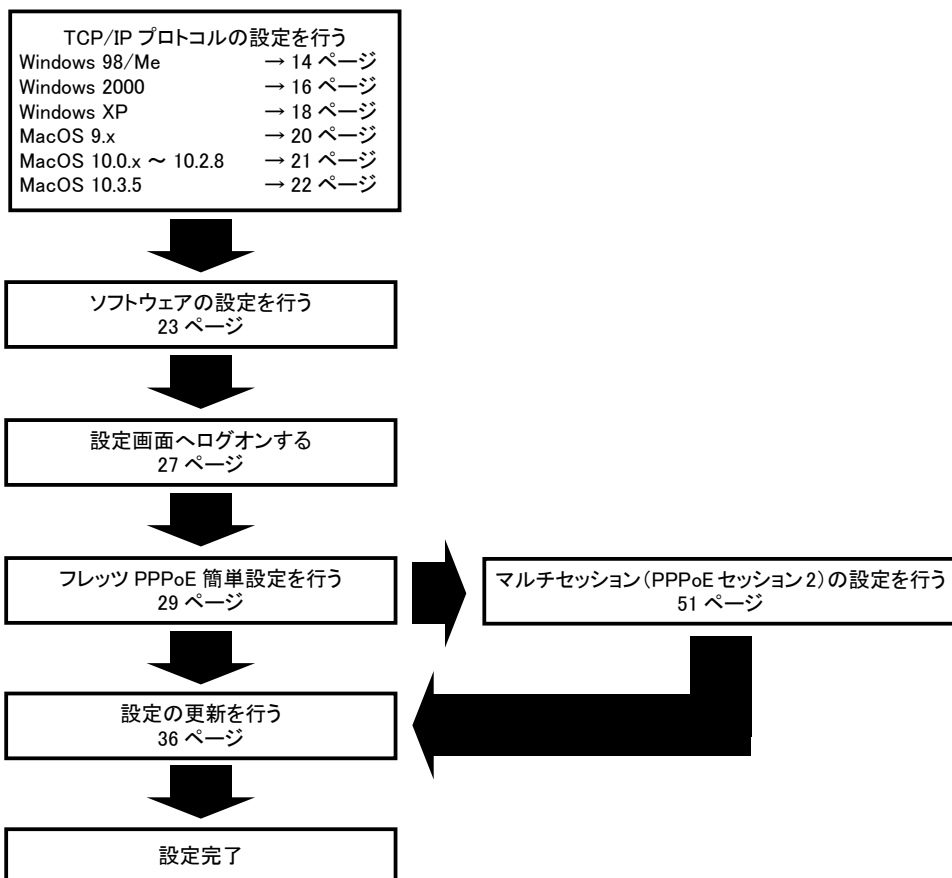
◆フレッツ(PPPoE)簡単設定を行う

フレッツ・ADSLやBフレッツ等PPPoEクライアント機能を使用してインターネットへ接続する場合、「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行うことにより、必要最低限の設定を行うだけで、インターネットへ接続することができます。

確認 フレッツ(PPPoE)簡単設定はPPPoEセッション1に「ユーザー名」、「パスワード」、「DNSサーバー」のみ設定します。PPPoEセッション1により詳細な設定が必要な場合は、添付のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)をWWWブラウザで参照して設定を行ってください。

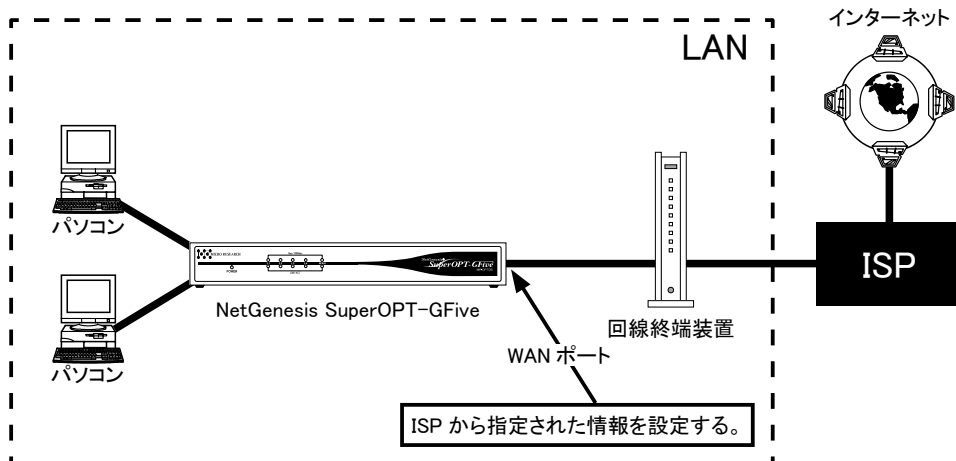


●設定完了までの流れ



◆ WANポートの設定を行う

ISPからIPアドレスを自動取得する場合や、ISPから指定されたIPアドレスを設定する場合の設定手順について説明します。



● 設定完了までの流れ

TCP/IP プロトコルの設定を行う	
Windows 98/Me	→ 14 ページ
Windows 2000	→ 16 ページ
Windows XP	→ 18 ページ
MacOS 9.x	→ 20 ページ
MacOS 10.0.x ~ 10.2.8	→ 21 ページ
MacOS 10.3.5	→ 22 ページ

ソフトウェアの設定を行う
23 ページ

設定画面へログオンする
27 ページ

WANポートの設定を行う
29 ページ

設定の更新を行う
36 ページ

設定完了

確認

CATVやYahoo!BB等、IPSからIPアドレスを自動取得できる場合、NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定をせずにインターネットへ接続することも可能です。
(WANポート設定は工場出荷時「DHCPクライアント機能有効」の状態になっています。)
その場合は、「TCP/IPプロトコルの設定」と「ソフトウェアの設定」のみ行って下さい。

3. パソコンの設定

NetGenesis SuperOPT-GFive に接続するパソコンの設定について説明します。
設定手順は OS の種類により異なります。
以下を参照して下さい。

- **Windows 98/Meを接続する場合**
→「3-1. Windows 98/Me(TCP/IP)の設定」(次項)を参照して下さい。
- **Windows 2000を接続する場合**
→「3-2. Windows 2000(TCP/IP)の設定」(16ページ)を参照して下さい。
- **Windows XPを接続する場合**
→「3-3. Windows XP(TCP/IP)の設定」(18ページ)を参照して下さい。
- **Mac OS 9.xを接続する場合**
→「3-4. Mac OS 9.x(TCP/IP)の設定」(20ページ)を参照して下さい。
- **Mac OS X 10.0.x ~ 10.2.8を接続する場合**
→「3-5. Mac OS X 10.0.x ~ 10.2.8(TCP/IP)の設定」(21ページ)を参照して下さい。
- **Mac OS X 10.3.5を接続する場合**
→「3-6. Mac OS X 10.3.5(TCP/IP)の設定」(22ページ)を参照して下さい。
- **ソフトウェアの設定**
→「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)を参照して下さい。

3-1. Windows 98/Me(TCP/IP)の設定

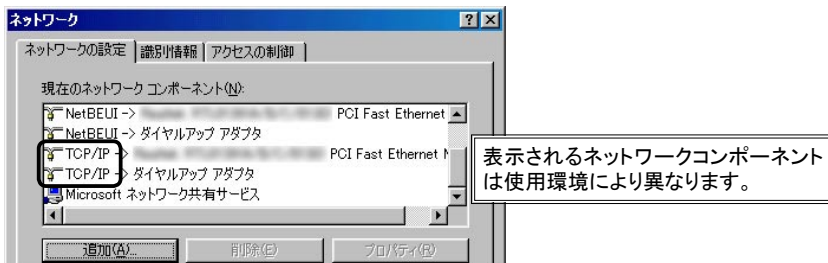
Windows 98/Me を接続する場合の TCP/IP プロトコルの設定について説明します。

確認

パソコンに、あらかじめイーサネットボードをセットアップしておいて下さい。
イーサネットボードのセットアップ方法については、イーサネットボードのマニュアルを参照して下さい。

以下の手順で TCP/IP プロトコルを設定して下さい。

- ① [マイコンピュータ] をダブルクリックし、[コントロールパネル] をダブルクリックして下さい。
- ② [ネットワーク] をダブルクリックして下さい。
- ③ 以下の画面が表示されますので、TCP/IP プロトコルがセットアップされているか確認して下さい。



確認

TCP/IP プロトコルがセットアップされていない場合は、Windows のマニュアルやイーサネットボードのマニュアルを参照して TCP/IP プロトコルをセットアップして下さい。

- ④ [TCP/IP -> "イーサネットボード名"] を選択して、[プロパティ] ボタンをクリックして下さい。

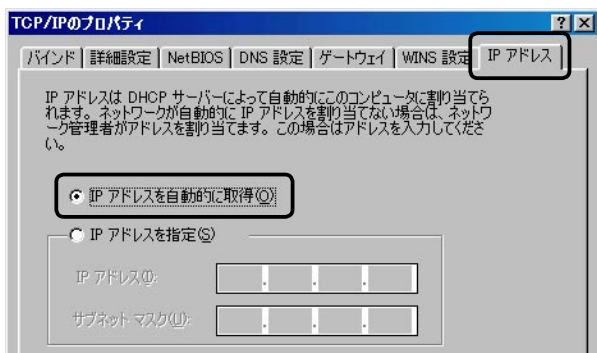


確認

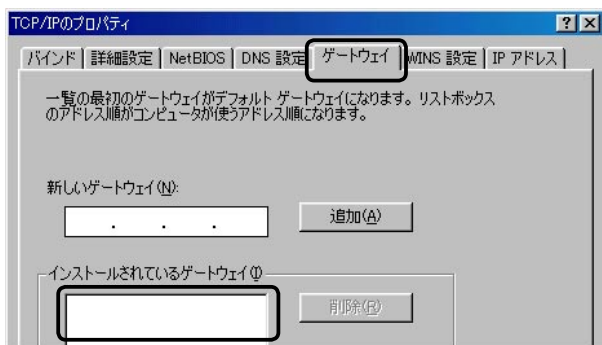
パソコンにネットワークアダプタが複数セットアップされていない場合は、「-> "イーサネットボード名"」の部分は表示されずに、「TCP/IP」とだけ表示されます。

<次ページへ進んで下さい>

- ⑤以下の画面が表示されますので、[IPアドレス]のタブをクリックして下さい。
[IPアドレスを自動的に取得]が選択されているか確認して下さい。



- ⑥[ゲートウェイ]のタブをクリックして下さい。
[インストールされているゲートウェイ]欄が空欄になっていることを確認して下さい。
ゲートウェイがインストールされている場合は、削除して下さい。



- ⑦[DNS設定]のタブをクリックして下さい。
[DNSを使わない]が選択されていることを確認して下さい。
確認ができましたら、各画面で[OK]ボタンをクリックして下さい。



- ⑧Windowsのメッセージに従い、Windowsを再起動して下さい。

以上で設定は完了です。

「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)へ進んで下さい。

3-2. Windows 2000(TCP/IP)の設定

Windows 2000 を接続する場合の TCP/IP プロトコルの設定について説明します。

確認

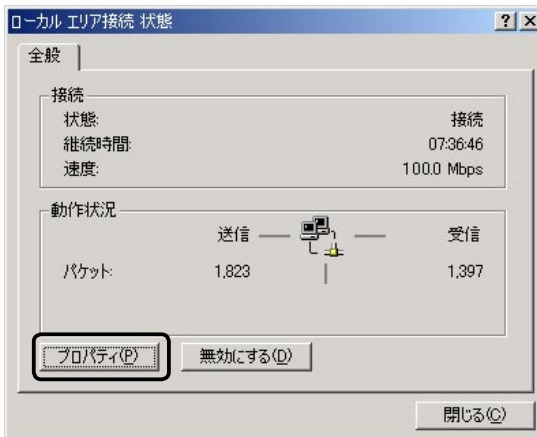
パソコンに、あらかじめイーサネットボードをセットアップしておいて下さい。
イーサネットボードのセットアップ方法については、イーサネットボードのマニュアルを参照して下さい。

以下の手順でTCP/IPプロトコルを設定して下さい。

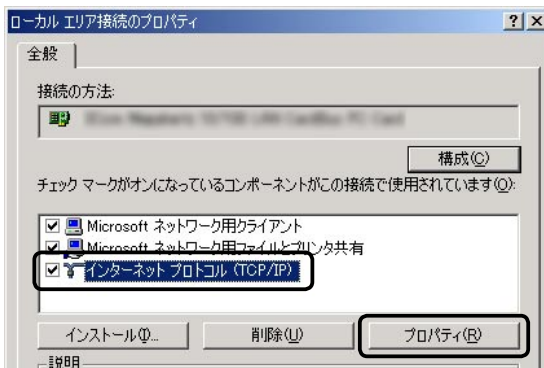
- ①[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]の順番にダブルクリックして下さい。
- ②[ローカルエリア接続]をダブルクリックして下さい。



- ③[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。

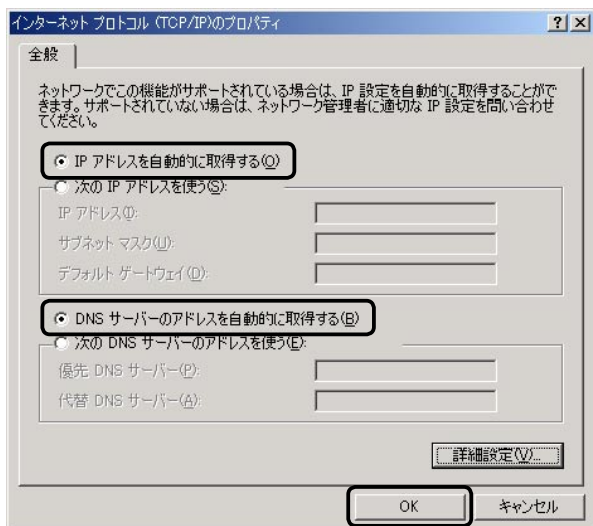


- ④[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

- ⑤ [IPアドレスを自動的に取得する]、及び [DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択して下さい。
設定が完了しましたら、各画面で [OK] ボタンをクリックして下さい。



以上で設定は完了です。

「3-7. ソフトウェアの設定」(23 ページ)へ進んで下さい。

3-3. Windows XP (TCP/IP) の設定

Windows XP を接続する場合の TCP/IP プロトコルの設定について説明します。

確認

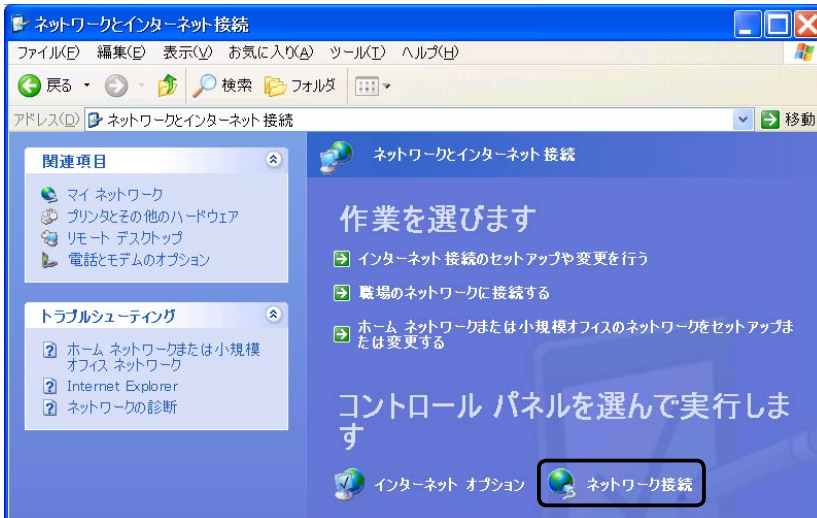
パソコンに、あらかじめイーサネットボードをセットアップしておいて下さい。
イーサネットボードのセットアップ方法については、イーサネットボードのマニュアルを参照して下さい。

以下の手順で TCP/IP プロトコルを設定して下さい。

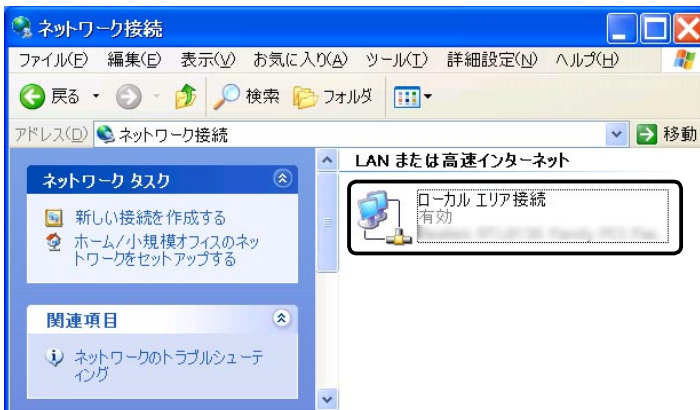
- ① [スタート] → [コントロールパネル] の順番にクリックして下さい。
- ② [ネットワークとインターネット接続] をクリックして下さい。



- ③ [ネットワーク接続] をクリックして下さい。



- ④ [ローカル エリア接続] をダブルクリックして下さい。

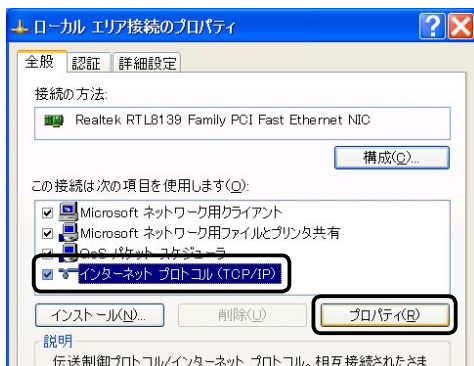


<次ページへ進んで下さい>

⑤ [プロパティ] ボタンをクリックして下さい。

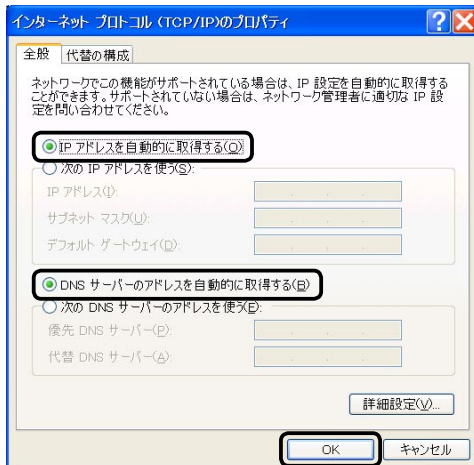


⑥ [インターネット プロトコル(TCP/IP)] を選択して、[プロパティ] ボタンをクリックして下さい。



⑦ [IP アドレスを自動的に取得する]、及び [DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択して、[OK] ボタンをクリックして下さい。

設定が完了しましたら、各画面で [OK] ボタンをクリックして下さい。



以上で設定は完了です。

「3-7. ソフトウェアの設定」(23 ページ)へ進んで下さい。

3-4. Mac OS 9.x(TCP/IP)の設定

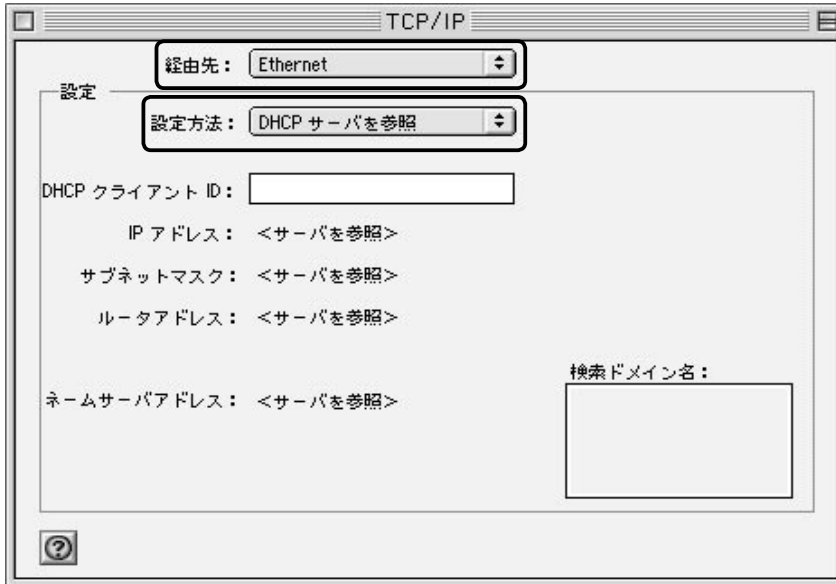
Mac OS 9.xを接続する場合のTCP/IPプロトコルの設定について説明します。

確認

パソコンに、あらかじめイーサネットボードをセットアップしておいて下さい。
イーサネットボードのセットアップ方法については、イーサネットボードのマニュアルを参照して下さい。

以下の手順でTCP/IPプロトコルを設定して下さい。

- ①[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]を選択して下さい。
- ②[経由先]を[Ethernet]に、[設定方法]を[DHCPサーバーを参照]に設定して画面を閉じて下さい。
(必ず設定を保存して下さい。)



以上で設定は完了です。

「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)へ進んで下さい。

3-5. Mac OS X 10.0.x ~ 10.2.8(TCP/IP)の設定

Mac OS X 10.0.x ~ 10.2.8を接続する場合のTCP/IPプロトコルの設定について説明します。

確認

パソコンに、あらかじめイーサネットボードをセットアップしておいて下さい。
イーサネットボードのセットアップ方法については、イーサネットボードのマニュアルを参照して下さい。

以下の手順でTCP/IPプロトコルを設定して下さい。

- ① [アップルメニュー]→[システム環境設定]と順番にクリックして下さい。
- ② [ネットワーク]をダブルクリックして下さい。
- ③ [場所]で[自動]を、[設定]で[内蔵 Ethernet]を選択して下さい。
- ④ [TCP/IP]タブをクリックし、[設定]で[DHCP サーバを参照]を選択して下さい。
- ⑤ [IPアドレス]が「192.168.0.2 ~ 192.168.0.254」の範囲になっていることを確認して下さい。



- ⑥ [PPPoE]タブをクリックして下さい。
- ⑦ [PPPoEを使って接続する]のチェックを外して下さい。



- ⑧ 設定が完了しましたら、[保存]ボタンをクリックしてからウィンドウを閉じて下さい。
「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)へ進んで下さい。

3-6. Mac OS X 10.3.5(TCP/IP)の設定

Mac OS X 10.3.5を接続する場合のTCP/IPプロトコルの設定について説明します。

確認

パソコンに、あらかじめイーサネットボードをセットアップしておいて下さい。
イーサネットボードのセットアップ方法については、イーサネットボードのマニュアルを参照して下さい。

以下の手順でTCP/IPプロトコルを設定して下さい。

- ① [アップルメニュー]→[システム環境設定]と順番にクリックして下さい。
- ② [ネットワーク]をクリックして下さい。
- ③ [場所]で[自動]を選択して下さい。
- ④ [表示]の中から[ネットワークの状況]を選択して下さい。
- ⑤ [内蔵 Ethernet]を選択して[設定...]ボタンをクリックして下さい。



- ⑥ [TCP/IP]をクリックし、[IPv4を設定]で[DHCPサーバーを参照]を選択して下さい。
- ⑦ [IPアドレス]が「192.168.0.2 ~ 192.168.0.254」の範囲になっていることを確認して下さい。



- ⑧ [PPPoE]をクリックして下さい。
- ⑨ [PPPoEを使って接続する]のチェックを外して下さい。



- ⑩ 設定が完了しましたら、[今すぐ適用]ボタンをクリックしてからウィンドウを閉じて下さい。
「3-7. ソフトウェアの設定」(次ページ)へ進んで下さい。

3-7. ソフトウェアの設定

WWWブラウザやメールソフトウェアの設定を確認します。

3-7-1. WWWブラウザの設定

WWWブラウザは以下のように設定して下さい。

- ◆ LANを使用してインターネットへ接続する。
(「ダイヤルアップ接続」や「モデムを使用してインターネットへ接続する」設定は不可。)
- ◆ プロキシサーバーは使用しない。
(NetGenesisの設定中は「使用しない」設定にして下さい。設定完了後は使用しても問題ありません。)

以下を例に説明します。

- Windows の場合
 - Internet Explorer 6 → 次項へ進んで下さい。
 - Netscape 7.1 → 次ページへ進んで下さい。
- Mac OS の場合
 - Internet Explorer 5.x → 25 ページへ進んで下さい。
 - Netscape 7.x → 25 ページへ進んで下さい。

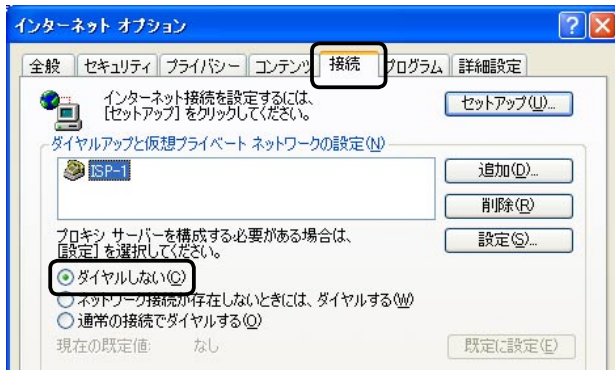
● Internet Explorer 6 の設定 (Windows)

① 以下の手順で「インターネットのプロパティ」画面を開いてください。

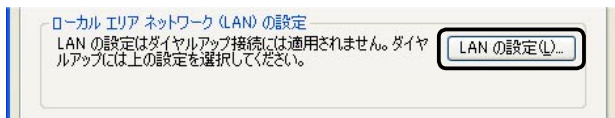
- ◆ Windows 98/Me/2000 の場合
[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[インターネットのプロパティ]の順番にダブルクリックして下さい。
- ◆ Windows XP の場合
[スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット接続]→[インターネット接続のセットアップや変更を行う]の順にクリックして下さい。

② [接続]のタブをクリックして下さい。
[ダイヤルしない]を選択して下さい。

※以下 Internet Explorer 6 の画面で説明します。
Internet Explorer5 の場合、若干画面が異なりますが設定箇所は同じです。



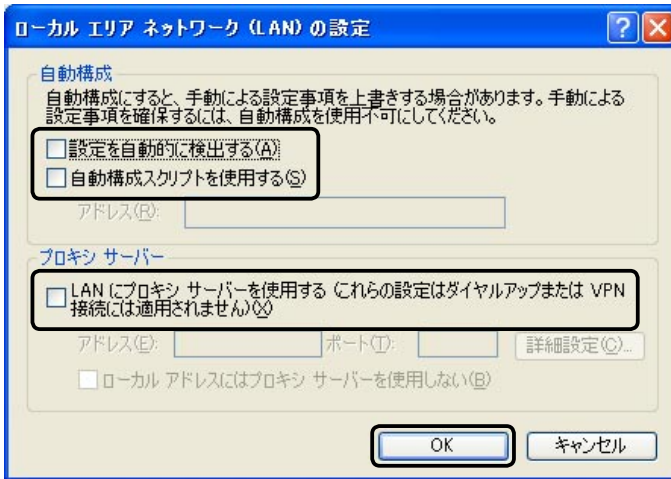
③ [LAN の設定] ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

④以下の設定を行って下さい。

- ・[設定を自動的に検出する]のチェックを外して下さい。
- ・[自動設定のスクリプトを使用する]もしくは、[自動構成のスクリプトを使用する]のチェックを外して下さい。
- ・[プロキシサーバーを使用する]もしくは、[LANにプロキシサーバーを使用する]のチェックを外して下さい。



⑤各画面で[OK]ボタンをクリックして下さい。

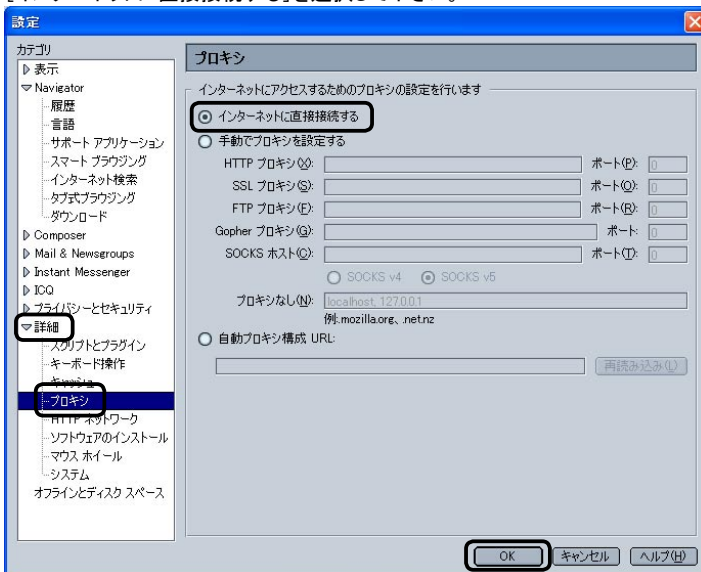
以上でInternet Explorer 6の設定は完了です。

「3-7-2. メールソフトウェアの設定」(26ページ)へ進んで下さい。

● Netscape 7.1 の設定 (Windows)

以下の手順で設定を行って下さい。

- ①Netscape を起動して下さい。
- ②[編集]メニューから[設定]をクリックして下さい。
- ③[カテゴリ]の中から[詳細]をダブルクリックして、[プロキシ]を選択して下さい。
[インターネットに直接接続する]を選択して下さい。



⑤[OK]ボタンをクリックして下さい。

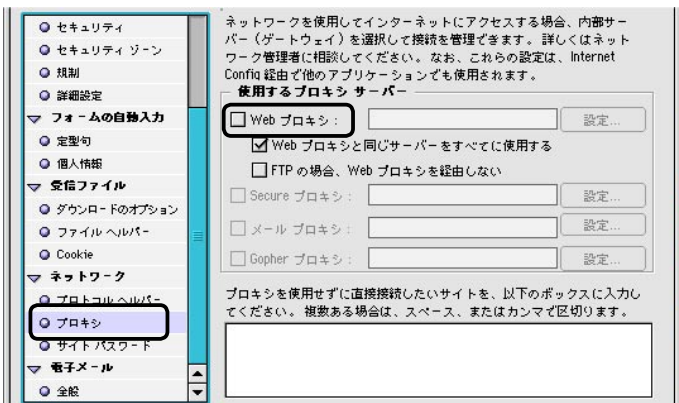
以上でNetscape6 ~ 7.1の設定は完了です。

「3-7-2. メールソフトウェアの設定」(26ページ)へ進んで下さい。

● Internet Explorer 5.x の設定 (Mac OS)

以下の手順で設定を行って下さい。

- ① Internet Explorer を起動して下さい。
- ② MacOS 9.x の場合、[編集]メニューから[初期設定]をクリックして下さい。
MacOS X の場合、[Explorer]メニューから[環境設定]をクリックして下さい。
- ③ 設定画面左側の一覧の中から[ネットワーク]をクリックして、[プロキシ]を選択して下さい。
[Web プロキシ]のチェックを外して下さい。



- ⑤ [OK] ボタンをクリックして下さい。

以上でInternet Explorer 5.xの設定は完了です。

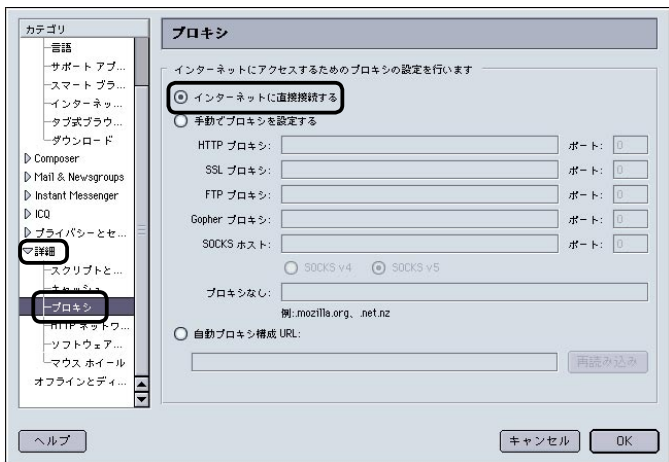
確認	Mac OS ではメールソフトウェアの設定は不要です。 「TCP/IP の設定」で行った操作により、メールソフトウェアは「LAN を使用してインターネットへ接続する設定」になります。
-----------	--

「4. ルータの設定」(27 ページ)へ進んで下さい。

● Netscape 7.x の設定 (Mac OS)

以下の手順で設定を行って下さい。

- ① Netscape を起動して下さい。
- ② MacOS 9.x の場合、[編集]メニューから[初期設定]をクリックして下さい。
MacOS X の場合、[Netscape]メニューから[環境設定]をクリックして下さい。
- ③ [カテゴリ]の中から[詳細]をダブルクリックして、[プロキシ]を選択して下さい。
[インターネットに直接接続する]を選択して下さい。



- ⑤ [OK] ボタンをクリックして下さい。

以上でNetscape 7.xの設定は完了です。

確認	Mac OS ではメールソフトウェアの設定は不要です。 「TCP/IP の設定」で行った操作により、メールソフトウェアは「LAN を使用してインターネットへ接続する設定」になります。
-----------	--

「4. ルータの設定」(27 ページ)へ進んで下さい。

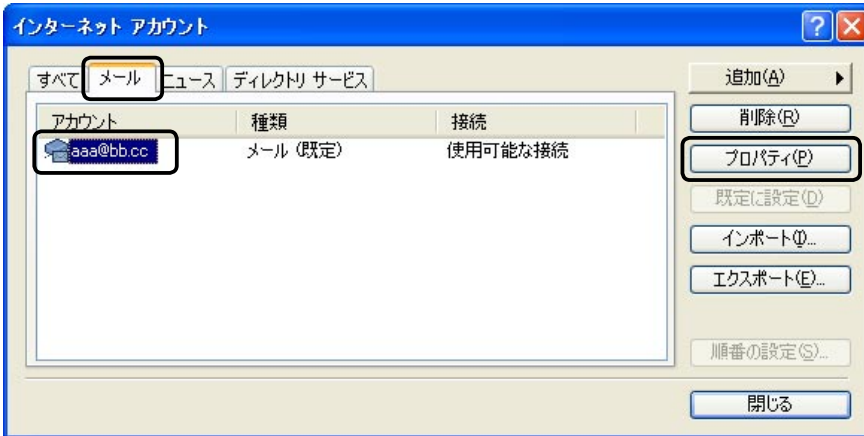
3-7-2. メールソフトウェアの設定 (Windows 環境のみ)

メールソフトウェアは「LANを使用してインターネットへ接続する」設定にしてください。
(「ダイヤルアップ接続」や「モデムを使用してインターネットへ接続する」設定は不可。)

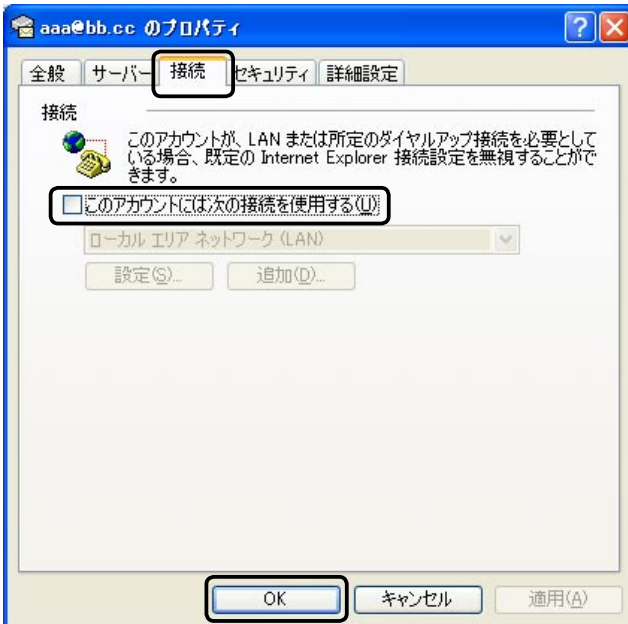
以下 Outlook Express 5 ～ 6 を例に説明します。

確認 Mac OS ではメールソフトウェアの設定は不要です。
「TCP/IP の設定」で行った操作により、メールソフトウェアは「LANを使用してインターネットへ接続する設定」になります。

- ① Outlook Express 起動後、[ツール]メニューから、[アカウント]をクリックすると以下の画面が表示されます。
[メール]タブをクリックし、[アカウント]欄から使用しているメールのアカウント名を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



- ② [接続]のタブをクリックし、[このアカウントには次の接続を使用する]のチェックを外して[OK]ボタンをクリックして下さい。



- ③ 本ページ①の画面に戻りますので、[アカウント]欄に登録されている全てのアカウントの設定が終わりましたら[閉じる]ボタンをクリックして下さい。

以上で Outlook Express 5 ～ 6 の設定は完了です。

「4. ルータの設定」(次ページ)へ進んで下さい。

4. ルータの設定

NetGenesis SuperOPT-GFive の設定について説明します。

4-1. 設定画面へのログオン

WWWブラウザからNetGenesisの設定画面にログオンする方法について説明します。

確認

以降、WWWブラウザの画面はInternet Explorer (Windows) を例とします。
また、WWWブラウザ側で指定しているフォントサイズ等により、表示イメージが異なる場合があります。

● WWWブラウザ設定にあたっての注意事項

- ◆ NetGenesis SuperOPT-GFive の設定を行うためには、以下のバージョンのWWWブラウザが必要です。
 - ・Internet Explorer 4以降
 - ・Netscape Communicator 4.7以降
 - ※ Internet Explorer 5以降を推奨します。
- ◆ 複数台のパソコンから、同時にNetGenesis SuperOPT-GFive の設定を更新しないようにして下さい。
動作不良の原因となります。
NetGenesis SuperOPT-GFive の設定は1台のパソコンから管理者等が行うようにして下さい。
- ◆ 設定画面の中の入力欄に文字を入力した後、Enterキーを押さないようにして下さい。
設定画面内のボタンが意図しないときに押されてしまう場合があります。
- ◆ 各設定画面中のプルダウンメニューから項目を選択した後、そのままホイールマウスのホイールを使用して画面をスクロールさせると、選択した項目が変わってしまいますので注意して下さい。
ホイールマウスを使用して画面をスクロールさせる場合は、設定画面中の他の場所(プルダウンメニューやボタン以外の場所)を一度クリックしてからホイールを使用して下さい。
- ◆ NetGenesis SuperOPT-GFive の設定が完了した場合、必ず「設定の更新」、「再起動」を行って下さい。
「設定の更新」、「再起動」を行わないと、設定内容は動作に反映されませんので注意して下さい。
- ◆ NetGenesis SuperOPT-GFive の設定は1度行えば全てのパソコンで共用できます。
接続する全てのパソコンからNetGenesis SuperOPT-GFive の設定を行う必要はありません。

● 設定画面へのログオン

以下の手順で設定画面へログオンして下さい。

- ① WWWブラウザを起動して下さい。
- ② WWWブラウザのアドレス入力欄(Internet Explorerの場合「アドレス」欄、Netscapeの場合「場所」欄)にNetGenesis SuperOPT-GFive のLANポートIPアドレス「192.168.0.1」(工場出荷値)を入力して「Enter」(Return)キーを押して下さい。

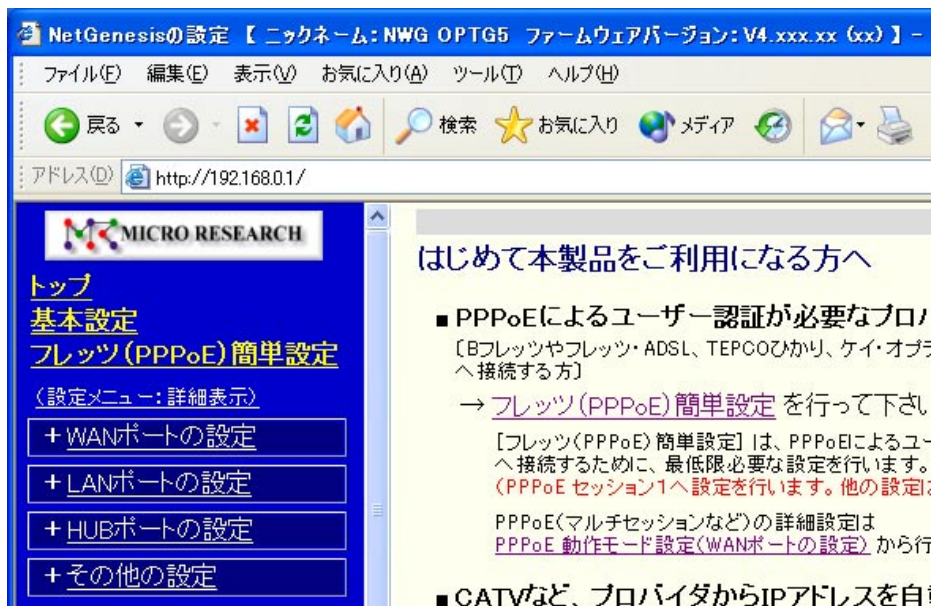


- ③ 以下のユーザー認証画面が表示されます。
「ユーザー名」に「admin」(半角英小文字)を入力し、「パスワード」は空欄のまま[OK]ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

- ④「NetGenesis の設定」画面が表示されます。
 (「NetGenesis の設定」画面へのログオン完了です。)



確認	ログオンユーザー ID、パスワードを変更したい場合は、添付の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を WWW ブラウザ で参照して下さい。
	「NetGenesis の設定」画面へログオンし直したい場合は、WWW ブラウザ を再起動して下さい。
	ユーザー認証画面で [キャンセル] ボタンをクリックした場合や「ユーザー名」や「パスワード」の入力を 3 回続けて間違えた場合、「認証キャンセル」画面が表示されます。
	「認証キャンセル」画面が表示された場合は、WWW ブラウザ を再起動して、ログオンし直して下さい。 ユーザー認証画面が表示されない場合、「5-6. 困ったときは (Q&A)」(58 ページ) を参照して下さい。

以上で設定画面へのログオンは完了です。

「4-2. WAN ポートの設定」(次ページ) へ進んで下さい。

4-2. WANポートの設定

WANポートの設定について説明します。

確認

設定を行う前に、ISP等から提供された設定資料を用意して下さい。
NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定は1度行えば全てのパソコンで共用できます。
接続する全てのパソコンから設定を行う必要はありません。

◆ PPPoEによる認証情報を設定する場合(フレッツ・ADSL/Bフレッツ、TEPCOひかり、eoホームファイバー等)

→「4-2-1. フレッツ(PPPoE)簡単設定」(次項)へ進んで下さい。

◆ IPアドレス等の情報を自動取得する場合(CATV、Yahoo!BB等)

→「4-2-2. DHCPクライアント機能を使う」(31ページ)へ進んで下さい。

◆ IPアドレス等の情報を固定する場合(CATV、IPアドレス固定のISP等)

→「4-2-3. IPアドレスを固定する」(33ページ)へ進んで下さい。

4-2-1. フレッツ(PPPoE)簡単設定(フレッツ・ADSL/Bフレッツ、TEPCOひかり、eoホームファイバー等)

フレッツ(PPPoE)簡単設定について説明します。

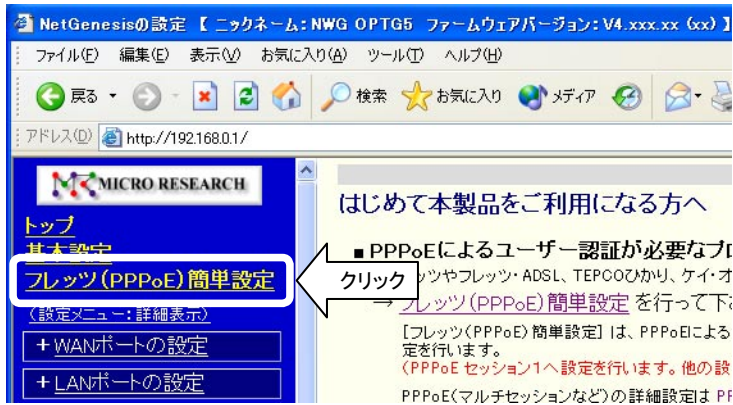
フレッツ・ADSL/Bフレッツ、TEPCOひかり、eoホームファイバー等、PPPoEクライアント機能を使用してインターネットへ接続する場合、「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行うことにより、必要最低限の設定を行うだけで、インターネットへ接続することができます。

確認

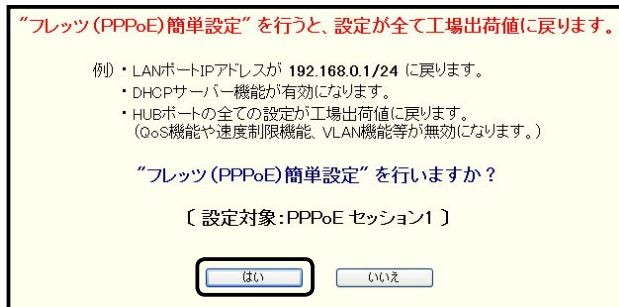
「フレッツ(PPPoE)簡単設定」で行った設定内容は「PPPoEセッション1」に設定されます。
「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行った場合、接続方法は「常時接続」になります。
「自動接続」や「手動接続」に設定する場合は、添付のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)をWWWブラウザで参照して設定を行って下さい。
「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行うと、設定内容は工場出荷値に戻ります。
既存の設定内容を確認する場合や一部修正する場合は、「PPPoEクライアント設定」から行って下さい。
【PPPoEクライアント設定画面を開く手順】
①設定画面へログイン→②「WANポートの設定」をクリック→③「PPPoE動作モード設定」をクリック
→④「セッション1詳細設定」ボタンをクリック

以下の手順で「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行って下さい。

①「フレッツ(PPPoE)簡単設定」の文字をクリックして下さい。



②以下の警告画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

- ③「フレッツ(PPPoE)簡単設定」画面が開きます。
以下の各項目を設定して下さい。

フレッツ(PPPoE)簡単設定

【 設定対象: PPPoE セッション1 】

Bフレッツやフレッツ・ADSLなど、PPPoEによるユーザー認証が必要なプロバイダへ接続するために、最低限必要な設定を行います。

下記以外の設定は全て工場出荷値に戻ります。

接続情報(アカウント)の設定

プロバイダから入手した資料を元に正しく設定して下さい。
(半角大文字・小文字を間違えないように注意して下さい。)

ユーザー名

○○○○○@△△△△△.ne.jp など、プロバイダから指定されたユーザー名を正しく入力して下さい。

パスワード

パスワード再入力

DNS情報の設定

プロバイダからDNS(ネームサーバー)のアドレスが指定されている場合は必ず入力して下さい。
(特に指定されていない場合は空欄でかまいません。)

プライマリDNS

セカンダリDNS

すべての設定が完了したらクリックして下さい。

◆ユーザー名

→ISPから指定されたユーザー名(アカウント名、ユーザーID、ログオンID等)を半角英数字で入力して下さい。
※「ユーザー名」は「xxxxx@xxxxx.ne.jp」等、“@”を含めて全て入力して下さい。

◆パスワード、パスワード再入力

→ISPから指定されたパスワードを半角英数字で入力して下さい。

◆プライマリDNS、セカンダリDNS

→ISPから指定されたDNSサーバー(ネームサーバー)のIPアドレスを入力して下さい。
ISPの資料を参照して、特に記載が無い場合はそのまま空欄にして下さい。

確認	<p>[ユーザー名]と[パスワード]を入力する際、半角大文字と小文字を間違えないよう注意して下さい。</p> <p>DNSサーバーIPアドレスがISPから自動付与されている場合、NetGenesis SuperOPT-GFiveが自動取得することができます。</p> <p>DNSサーバーIPアドレスの自動取得に成功した場合、「プライマリDNS」、「セカンダリDNS」で入力したDNSサーバーIPアドレスよりも自動取得したDNSサーバーIPアドレスが優先されます。</p>
-----------	--

- ④設定が完了しましたら、[設定]ボタンをクリックして下さい。

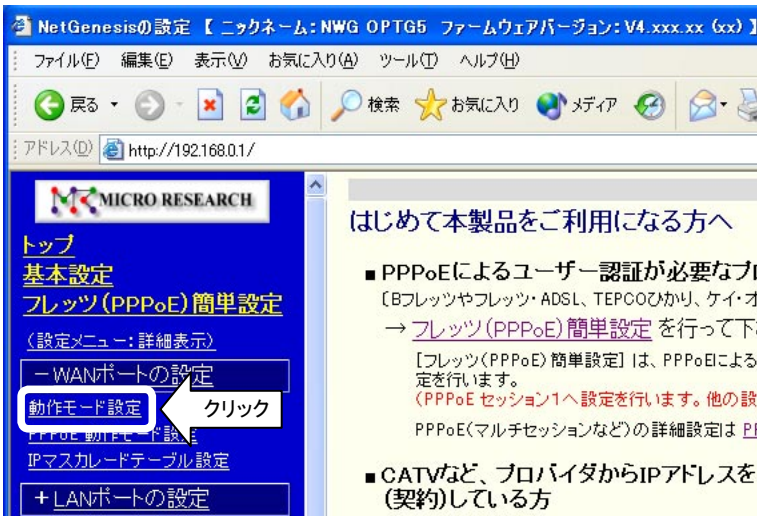
以上で「フレッツ(PPPoE)簡単設定」は完了です。

- マルチセッション機能を使用する(フレッツスクウェア等、接続先をもう一つ登録する場合)
→「5-5. PPPoE マルチセッション機能の設定例」(51ページ)へ進んで下さい。
- マルチセッション機能を使用しない場合
→「4-3. 設定の更新」(36ページ)へ進んで下さい。

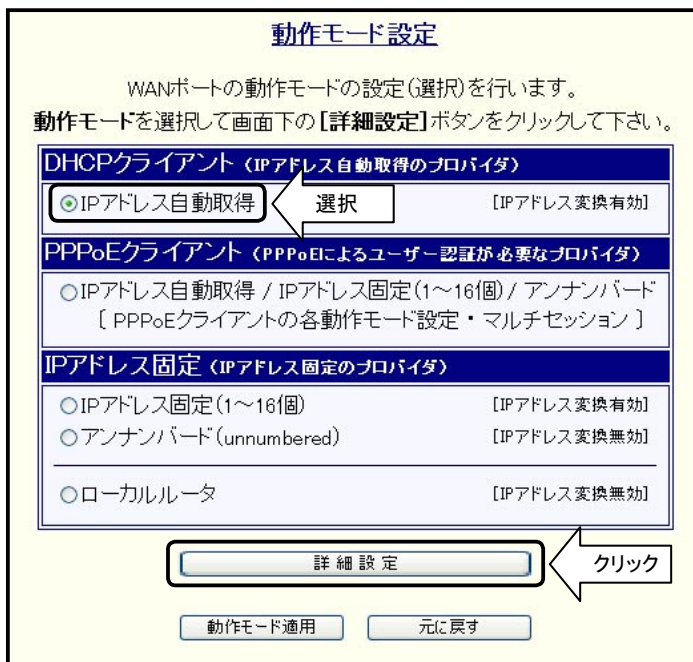
4-2-2. DHCPクライアント機能を使う(CATV、Yahoo!BB等)

WANポートで「DHCPクライアント機能を使用する」場合の設定について説明します。

①[WANポートの設定]をクリックし、「動作モード設定」をクリックして下さい。



②「動作モード選択」画面が開きますので、「DHCPクライアント」欄の「IPアドレス自動取得」を選択して、「詳細設定」ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

③「DHCPクライアント設定」画面が開きますので、以下の各項目を設定して下さい。

DHCPクライアント設定

[IPアドレス自動取得 / IPアドレス変換有効]

DHCPクライアントのオプション設定

ホスト名(コンピュータ名)

※画面は一部省略しています。

DNS情報の設定

WAN側から取得したDNS情報を優先する

プライマリDNS

セカンダリDNS

サードDNS

フォースDNS

UPnPニックネーム(接続名称)の設定

UPnPニックネーム(接続名称) (半角英数字のみ入力可能)

◆ここで設定するニックネームが「PC側に表示されるインターネットゲートウェイ上の接続名称」となります。

WANポートのMTU/MRUの設定

MTU値 (工場出荷値:1514 / 設定可能範囲:1514~7432)

MRU値 (工場出荷値:13308 / 設定可能範囲:1514~13308)

◆ジャンボフレームを使用する場合、上記のMTU/MRU値を変更して下さい。
ただし、通信経路上の全ての機器がジャンボフレームに対応している必要があります。

すべての設定が完了したらクリックして下さい。

◆ホスト名(コンピュータ名)

→「ホスト名(コンピュータ名)」欄に必要なに応じて[ホスト名]を入力して下さい。
契約しているISPによっては、ホスト名やコンピュータ名の入力が必要とすることがあります。
詳しくは、ISPから提供された設定資料等を参照するか、ISPにお問い合わせ下さい。
ホスト名の入力を必要としない場合はそのまま空欄にして下さい。

◆DNS情報の設定

→ISPから提供された設定資料等に、DNSサーバーの情報が無い場合は[WAN側から取得したDNS情報を優先する]にチェックを入れて[プライマリDNS]から[フォースDNS]欄まで空欄のままにして下さい。
DNSサーバーの情報がある場合は、[WAN側から取得したDNS情報を優先する]のチェックを外してDNSサーバーのIPアドレスを入力して下さい。

◆UPnPニックネーム(接続名称)の設定

→パソコン(Windows XP)側に表示される「インターネットゲートウェイ上の接続名称」を設定します。
(半角英数字のみ、最大31文字まで設定可能です。)
通常は変更する必要はありません。

確認 DMZホスト機能の設定、IPマスカレード変換の設定、Windows Messenger変換の設定、PPTP変換の設定、WANポートのMTU/MRUの設定については本書では解説していません。
これらの機能を使用(変更)する場合は、添付のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)をWWWブラウザで参照して設定を行って下さい。

④設定が完了しましたら、[設定]ボタンをクリックして下さい。

以上で、「WANポートの設定」は完了です。
「4-3. 設定の更新」(36ページ)へ進んで下さい。

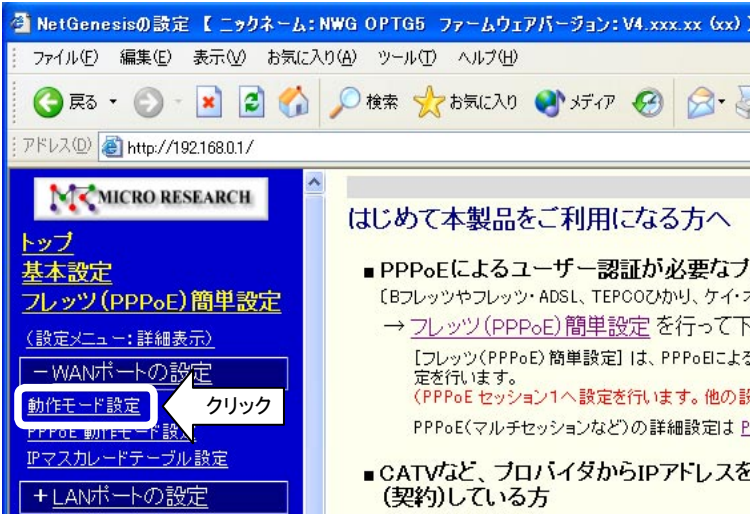
4-2-3. IPアドレスを固定する(CATV、IPアドレス指定のISP等)

WANポートに「IPアドレスを固定する」場合の設定について説明します。

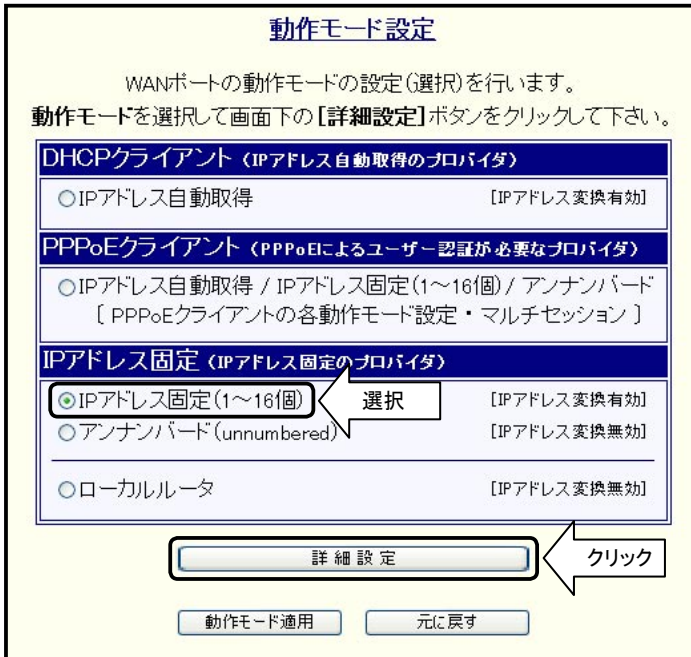
確認

本書ではIPアドレスを1個固定する設定のみ説明しています。
複数のIPアドレスを使用する場合は、付属のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htm
ファイル)を参照して設定して下さい。

①[WANポートの設定]をクリックし、「動作モード設定」をクリックして下さい。



②「動作モード選択」画面が開きますので、「IPアドレス固定」欄の「IPアドレス固定(1～16個)」を選択して、「詳細設定」ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

③「IPアドレス固定(1～16個)設定」画面が開きます。

④ ISP から提供された資料等を参照して、「WAN 側ネットワークの設定」欄を設定して下さい。

◆ネットワークアドレス / サブネット

- ISP から指定されたネットワークアドレス、及びサブネットを入力して下さい。
ネットワークアドレスがわからない場合は、ISP から指定されたIP アドレスを入力して下さい。
サブネットがわからない場合は、入力欄右の「サブネットについて」のリンクをクリックして下さい。
サブネットの入力についてのヘルプ画面が開きます。

◆デフォルトゲートウェイ

- ISP から指定されたデフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力して下さい。

確認

入力する設定値を間違えないよう、くれぐれも注意して下さい。
設定値を誤ったまま設定を更新した場合、ISP や他の利用者に多大な迷惑をかける恐れがあります。

⑤「変換用ネットワークの設定」欄を設定して下さい。

◆WAN 側 IP マスカレード変換用 IP アドレス

- ISP から指定されたIPアドレスを入力して下さい。

確認

入力する設定値を間違えないよう、くれぐれも注意して下さい。
設定値を誤ったまま設定を更新した場合、ISP や他の利用者に多大な迷惑をかける恐れがあります。

◆サブネット(変換IPアドレス数)

- [255.255.255.255(/32・1個)] を選択して下さい。

◆LAN 側変換後の先頭IPアドレス

- NetGenesis SuperOPT-GFive のLANポートIPアドレス「192.168.0.1」(工場出荷値)を入力して下さい。

<次ページへ進んで下さい>

⑥ ISP から提供された資料等を参照して、DNS サーバー（ネームサーバー）の IP アドレスを入力して下さい。

DNS情報の設定	
プライマリDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.200"/>
セカンダリDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.201"/>
サードDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.202"/>
フォースDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.203"/>

確認

プライマリDNSは必ず入力して下さい。
セカンダリDNS～フォースDNSは必要に応じて入力して下さい。

⑦ UPnP ニックネーム（接続名称）の設定を確認して下さい。

UPnPニックネーム（接続名称）の設定	
UPnPニックネーム（接続名称）	<input type="text" value="WAN connection"/> <small>（半角英数字のみ入力可能）</small>
◆ここで設定するニックネームが「PC側に表示されるインターネットゲートウェイ上の接続名称」となります。	

パソコン（Windows XP）側に表示される「インターネットゲートウェイ上の接続名称」を設定します。
（半角英数字のみ、最大31文字まで設定可能です。）
通常は変更する必要はありません。

⑧設定が完了しましたら、[設定]ボタンをクリックして下さい。

IPアドレス固定（1～16個）設定	
[IPアドレス変換有効]	
WAN側 ネットワークの設定	
ネットワークアドレス/サブネット	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.0/24"/> サブネットについて
デフォルトゲートウェイ	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.250"/>
IPアドレス変換の設定	
変換用ネットワークの設定	
WAN側 IPマスカレード変換用IPアドレス	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.123"/>
サブネット（変換IPアドレス数）	<input type="text" value="255.255.255（/32・1個）"/>
LAN側 変換後の先頭IPアドレス	<input type="text" value="192.168.0.1"/>
※画面は一部省略しています。	
DNS情報の設定	
プライマリDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.200"/>
セカンダリDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.201"/>
サードDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.202"/>
フォースDNS	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.203"/>
UPnPニックネーム（接続名称）の設定	
UPnPニックネーム（接続名称）	<input type="text" value="WAN connection"/> <small>（半角英数字のみ入力可能）</small>
◆ここで設定するニックネームが「PC側に表示されるインターネットゲートウェイ上の接続名称」となります。	
WANポートのMTU/MRUの設定	
MTU値	<input type="text" value="1514"/> <small>（工場出荷値：1514 / 設定可能範囲：1514～7432）</small>
MRU値	<input type="text" value="13308"/> <small>（工場出荷値：13308 / 設定可能範囲：1514～13308）</small>
◆ジャンボフレームを使用する場合、上記のMTU/MRU値を設定する際は、通信経路上の全ての機器がジャンボフレームをサポートしている必要があります。	
すべての設定が完了したらクリックして下さい。	
<input type="button" value="設定"/>	<input type="button" value="元に戻す"/>

確認

DMZホスト機能の設定、IPマスカレード変換の設定、Windows Messenger変換の設定、PPTP変換の設定、WANポートのMTU/MRUの設定については本書では解説していません。
これらの機能を使用（変更）する場合は、添付のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル（manual.htmファイル）をWWWブラウザで参照して設定を行って下さい。

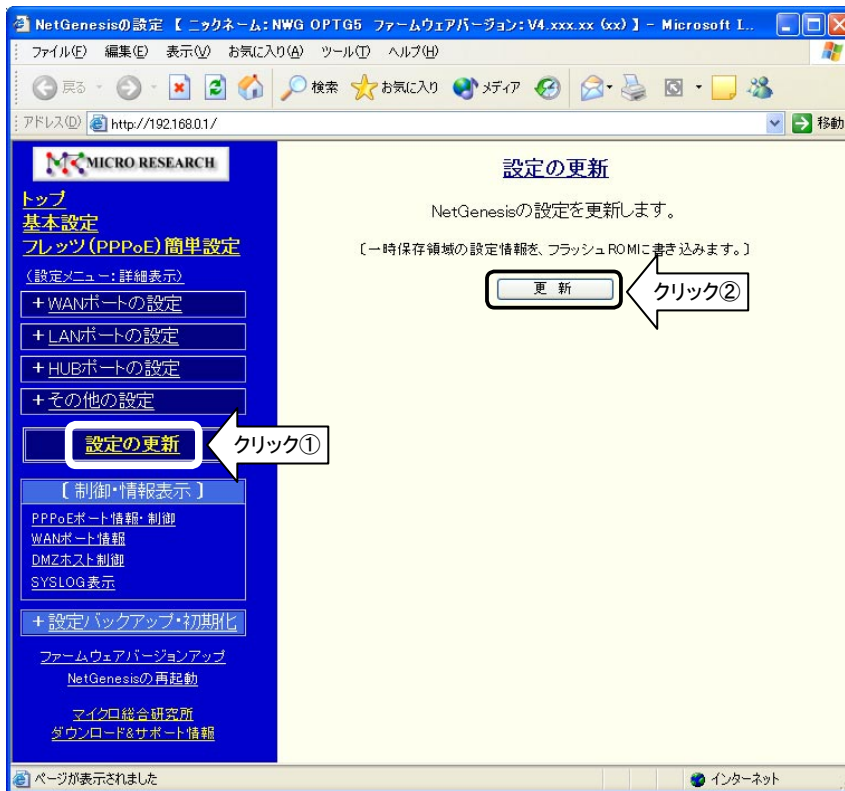
以上で、「WANポートの設定」は完了です。

「4-3. 設定の更新」（次ページ）へ進んで下さい。

4-3. 設定の更新

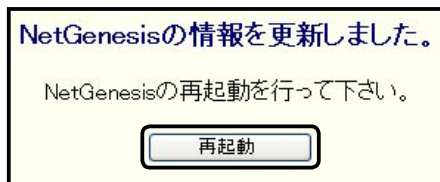
設定内容の更新について説明します。

①すべての設定が完了しましたら、[設定の更新]の文字をクリックして下さい。

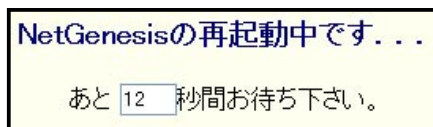


②「設定の更新」画面が表示されますので、[更新]ボタンをクリックして下さい。

③以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックして下さい。



④以下の画面が表示されますので、カウントダウンが完了し、画面が切り替わるまで何も操作しないで下さい。



確認

NetGenesis SuperOPT-GFiveの再起動には約1分かかります。
再起動が完了するまでNetGenesis SuperOPT-GFiveのPOWERランプが点滅します。

<次ページへ進んで下さい>

⑤以下のメッセージが表示されると、設定内容の更新は完了です。

NetGenesisの再起動が完了しました。

- 「設定の更新」を行った方
引き続き設定や制御、情報表示を行う場合は、左のメニューをクリックして下さい。
- 「ファームウェアバージョンアップ」を行った方
設定や制御、情報表示を行う場合は、ブラウザを再起動して下さい。

再起動が完了した時点で、NetGenesis SuperOPT-GFiveは自動的にISPとの接続を開始します。

確認

NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定は、内部のフラッシュ ROMに書き込まれますので、複数台のパソコンを接続する場合、2台目以降のパソコンから設定を再度行う必要はありません。
2台目以降のパソコンでは、「3. パソコンの設定」(14ページ)のみ行えば、インターネットへ接続することができます。

5. 付録

以下の内容について説明します。

- 5-1. ファームウェアバージョンとMACアドレスの確認方法(次項)
- 5-2. SYSLOG機能の使用法(次ページ)
- 5-3. ISPから自動取得したIPアドレスの確認方法(41ページ)
- 5-4. UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)機能の使用法(42ページ)
- 5-5. PPPoE マルチセッション機能の使用例(51ページ)
- 5-6. 困ったときは(Q&A)(58ページ)
- 5-7. ユーザーサポートについて(66ページ)

5-1. ファームウェアバージョンとMACアドレスの確認方法

NetGenesis SuperOPT-GFiveのファームウェアバージョンとMACアドレス(物理アドレス)の確認方法について説明します。

①「NetGenesisの設定」画面を起動して下さい。

※「4-1. 設定画面へのログオン」(27ページ)を参照して下さい。

②トップ画面の「本体情報」欄に、ファームウェアバージョン、MACアドレス等の各情報が表示されます。

はじめて本製品をご利用になる方へ

- PPPoEによるユーザー認証が必要なプロバイダへ接続する方
〔Bフレッツやフレッツ・ADSL、TEPCOひかり、ケイ・オプティコム eoホームファイバー などへ接続する方〕
→ [フレッツ\(PPPoE\)簡単設定](#)を行って下さい。
〔フレッツ(PPPoE)簡単設定〕は、PPPoEによるユーザー認証が必要なプロバイダへ接続するために、最低限必要な設定を行います。
〔PPPoEセッション1へ設定を行います。他の設定は工場出荷値に戻ります。〕
PPPoE(マルチセッションなど)の詳細設定は [PPPoE動作モード設定\(WANポートの設定\)](#) から行うことができます。
- CATVなど、プロバイダからIPアドレスを自動取得(DHCP)する、または固定IPアドレスを取得(契約)している方
→ [動作モード設定\(WANポートの設定\)](#)を行って下さい。

(各設定の詳細についてはユーザーズマニュアルを参照して下さい。)

左のメニューから設定・作業を行う項目をクリックして下さい。
設定内容を有効にするためには、必ず設定の更新を行って下さい。

本体情報	
・ニックネーム	: NWG OPTG5
・ファームウェアバージョン	: V4.xxx.xx (xx)
・WANポートMACアドレス(工場出荷値)	: 00:10:38:abc:def
・WANポートMACアドレス(設定値)	:
・LANポートMACアドレス	: 00:10:38:0abc:de
・システム起動経過時間	: 0:10:20.2

Copyright (C) 2002-2004 Micro Research Laboratory, Inc.

LANポート及びWANポートのMACアドレスは、NetGenesis SuperOPT-GFive 本体底面のシールでも確認することができます。(バーコードの下の「WAN:」以降、「LAN:」以降の英数字がMACアドレスです。)



5-2. SYSLOG 機能の使用法

● SYSLOG 機能とは？

SYSLOG 機能とは、システムで発生したイベントや情報などを、システムのメッセージとして NetGenesis SuperOPT-GFive に接続したパソコンに表示する機能です。

確認

本書では、SYSLOG 機能の基本的な操作のみ説明します。
SYSLOG 機能の詳細については、付属の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を参照して下さい。

5-2-1. SYSLOG の表示

SYSLOG の表示方法について説明します。

- ①「NetGenesis の設定」画面へログインして下さい。
※「4-1. 設定画面へのログイン」(27 ページ) を参照して下さい。
- ②メニューより「SYSLOG 表示」の文字をクリックして下さい。
「SYSLOG 表示」画面が表示されます。

NetGenesis の設定 【ニックネーム: NWG OPTG5 ファームウェアバージョン: V4.xxx.xx (xx)】 - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://192.168.0.1/

SYSLOG 表示

```
--:--:-- LOG_INFO NWG OPT V4.xxx Syslog start.
--:--:-- LOG_INFO S03:POE: Open start.
--:--:-- LOG_INFO S03:POE: Discovery stage start.
--:--:-- LOG_INFO S03:POE: Discovery stage opened.
--:--:-- LOG_INFO S03:POE: Session stage start.
--:--:-- LOG_INFO S03:PPP: Open start.
--:--:-- LOG_INFO S03:PPP: LCP UP.
--:--:-- LOG_INFO S03:PPP: LCP UP.
--:--:-- LOG_INFO S03:PPP: CHAP UP.
--:--:-- LOG_INFO S03:PPP: IPCP UP. My IP=xxx.xxx.xxx.xxx, Peer IP=yyy.yy.yyy.yyy
--:--:-- LOG_INFO S03:PPP: PridNS=111.111.111.111, SecDNS=222.222.222.222
--:--:-- LOG_INFO S03:POE: Session stage opened.
--:--:-- LOG_INFO S03: : Connect successfully.(--:--:--)
```

最新の情報に更新

SYSLOG はリアルタイムでは表示されません。
以降の SYSLOG を表示する場合は、このボタンをクリックして下さい。

「NetGenesis の設定」画面で SYSLOG を表示させる場合は、SYSLOG の設定は特に必要ありません。
(工場出荷値では、メッセージタイプ「LOG_INFO」のみ表示させる設定になっています。)
ただし、出力するメッセージタイプを変更する場合や、他の SYSLOG ソフトウェアを使用する場合は、SYSLOG の設定が必要になります。

付属の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を参照して設定を行って下さい。

「SYSLOG 表示」画面には、メニューの「SYSLOG 表示」の文字をクリックした時点までの SYSLOG が表示されます。
(リアルタイムでは表示されません。)

以降の SYSLOG を見る場合は、[最新の情報に更新] ボタンをクリックして下さい。

確認

SYSLOG の「時間」を表示させる場合は、NetGenesis SuperOPT-GFive の「時刻設定」が必要になります。
「時刻設定」の方法については、付属の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を参照して下さい。(「時刻設定」がされていない場合、「--:--:--」と表示されます。)

「NetGenesis の設定」画面で表示可能な SYSLOG の行数は 100 行までです。
SYSLOG が 100 行に達すると、新たな SYSLOG を表示するたび、古いものから消去されていきます。
101 行以上の SYSLOG を表示したい場合は、他の SYSLOG ソフトウェア等を使用して下さい。

SYSLOG は NetGenesis SuperOPT-GFive の電源入れ直しや、再起動を行うと消去されます。

「NetGenesis の設定」画面では SYSLOG をファイルとして保存することはできません。
SYSLOG をファイルとして保存したい場合は、他の SYSLOG ソフトウェア等を使用して下さい。

5-2-2.SYSLOG表示例

● PPPoE 接続成功例

```
NWG OPT V4.xxx NetGenesis のファームウェアバージョン
S03:POE: Open start.
S03:POE: Discovery stage start. 接続を開始した。
S03:POE: Discovery stage opened.
S03:POE: Session stage start.
S03:PPP: Open start.
S03:PPP: LCP UP.
S03:PPP: LCP UP. ISPとのユーザー認証(ユーザー名、パスワードの確認)が正しく完了した。
S03:PPP: CHAP UP. (ISPの認証方式によっては、「PAP UP」と表示される場合があります。)
S03:PPP: IPCP UP. My IP=xxx.xxx.xxx.xxx.xxx, ISPから取得したIPアドレス。
S03:PPP: PridNS=111.111.111.111, SecDNS=222.222.222.222
S03:POE: Session stage opened.
S03: : Connect successfully.(--:--:--) ISPとの接続が完了した。
                                         (インターネットへ接続可能)
```

● PPPoE 接続失敗例

```
NWG OPT V4.xxx NetGenesis のファームウェアバージョン
S03:POE: Open start.
S03:POE: Discovery stage start. 接続を開始した。
S03:POE: Discovery stage opened.
S03:POE: Session stage start.
S03:PPP: Open start.
S03:PPP: LCP UP.
S03:PPP: LCP UP. ISPとのユーザー認証(ユーザー名、パスワードの確認)に失敗した。
S03:PPP: CHAP DOWN. (ISPの認証方式によっては、「PAP DOWN」と表示される場合があります。)
S03:PPP: LCP DOWN.
S03:POE: Session stage closed.
S03:POE: Closed(Closed session stage).
S03: : Disconnect successfully, duration 00:00:02.(--:--:--)
```

ISPとの接続に失敗した。

5-3. ISPから自動取得したIPアドレスの確認方法

NetGenesis SuperOPT-GFiveがISPから自動取得したIPアドレスの確認方法について説明します。

①「NetGenesisの設定」画面へログオンして下さい。

※「4-1. 設定画面へのログオン」(27ページ)を参照して下さい。

②メニューより以下の文字をクリックして下さい。

- 「PPPoEクライアント機能」を使用している場合(「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行った場合)
→「PPPoEポート情報・制御」をクリックして下さい。
ISPから自動取得したIPアドレスは「取得した自IPアドレス」欄に表示されます。

最新の情報に更新

PPPoEポート1 (セッション1・S03)

ニックネーム(接続名称) : PPPoE1 connection
接続モード(回線接続方法) : 常時接続
状態 : **接続状態**
接続時間 : 0:10:00
取得した自IPアドレス : xxxxxx123/24
取得した相手IPアドレス : xxxxxx250
取得したプライマリDNS : xxxxxx251
取得したセカンダリDNS : xxxxxx252

- 「DHCPクライアント機能」を使用している場合

→「WANポート情報」をクリックして下さい。

ISPから自動取得したIPアドレスは「IPアドレス/サブネット」欄に表示されます。

DHCPクライアント情報

DHCPクライアント : [使用]
MACアドレス : 00:10:38:abcd:ef
IPアドレス/サブネット : xxxxxx123/24
デフォルトゲートウェイ : xxxxxx250
プライマリDNS : xxxxxx251
セカンダリDNS : xxxxxx252
サードDNS : 0.0.0.0
フォースDNS : 0.0.0.0
ドメイン名 :
リース期限(時間:分:秒) : 12:00:0
残り時間(時間:分:秒) : 11:00:0

IP解放 IP取得

最新の情報に更新

・ [IP解放]と[IP取得]は、DHCPクライアント使用時のみ操作できます。
・ IPアドレス固定設定時は、WANポートに設定した情報が表示されます。

リンク速度

現在のリンク速度 : 1000M 全二重
リンク速度設定 自動認識 リンク速度を適用

最新の情報に更新

確認

「IP解放」、「IP取得」ボタンは、「DHCPクライアント機能」使用時のみ操作可能です。

「WANポート情報」画面でWANポートのリンク速度を変更することが可能です。

詳細については、付属のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)を参照して下さい。

5-4. UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)機能の使用方法

UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)機能の使用方法について説明します。

確認

PPPoEクライアント機能を使用する場合、UPnP機能はPPPoEセッション1でのみ動作します。PPPoEセッション2では動作しませんので注意して下さい。

● UPnP対応OSについて

UPnPを使用するには、UPnP対応OS(オペレーティングシステム)が必要です。

UPnPに対応しているOSは以下の通りです。(平成17年1月現在)

- ・Windows XP
- ・Windows Me

● UPnP対応アプリケーションについて

UPnPを使用するには、アプリケーション側もUPnPに対応している必要があります。弊社で動作確認済みのアプリケーションは以下の通りです。(平成17年1月現在)

- ・Windows Messenger 5以降
- ・MSN Messenger 5以降

■ NetGenesis SuperOPT-GFiveのUPnP設定

→「5-4-1.NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定」(次項)を参照して下さい。

■ Windows Meで使用する場合

→「5-4-2. Windows MeでUPnP機能を使用する」(次ページ)を参照して下さい。

■ Windows XPで使用する場合

→「5-4-3. Windows XPでUPnP機能を使用する」(46ページ)を参照して下さい。

5-4-1.NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定

NetGenesis SuperOPT-GFiveは工場出荷時、UPnP機能が有効になっています。

UPnP機能が有効かどうかは、以下の手順で確認することができます。

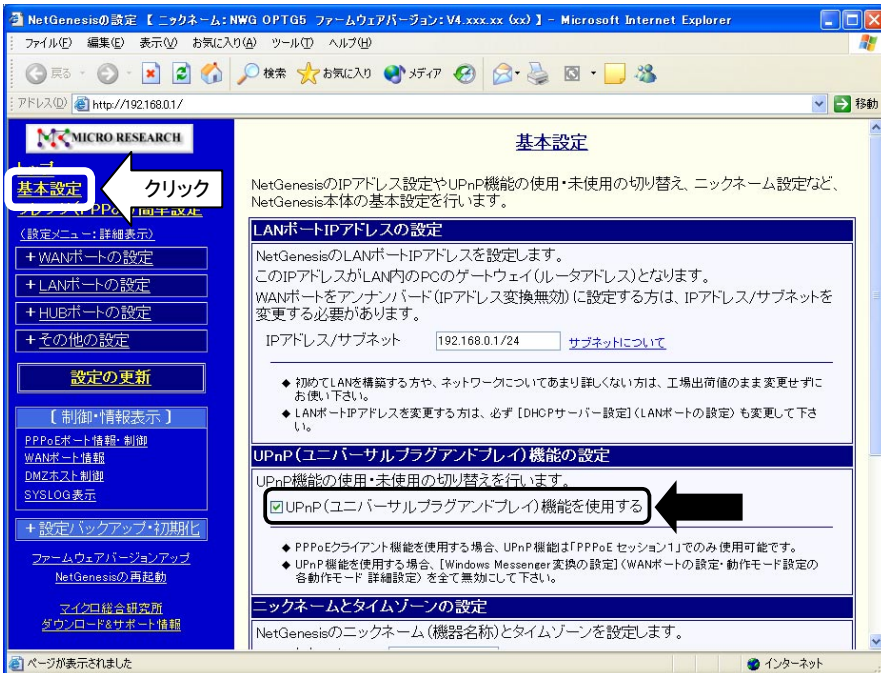
①「NetGenesisの設定」画面を起動して下さい。

※「4-1. 設定画面へのログオン」(27ページ)を参照して下さい。

②「基本設定」の文字をクリックして下さい。

「基本設定」画面が開きます。

「UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)機能を使用する」のチェックを外すとUPnP機能が無効になります。



確認

設定を変更した場合は、「設定」ボタンをクリックし、必ず「設定の更新」を行って下さい。設定の更新方法については「4-3. 設定の更新」(36ページ)を参照下さい。

5-4-2. Windows Me で UPnP 機能を使用する

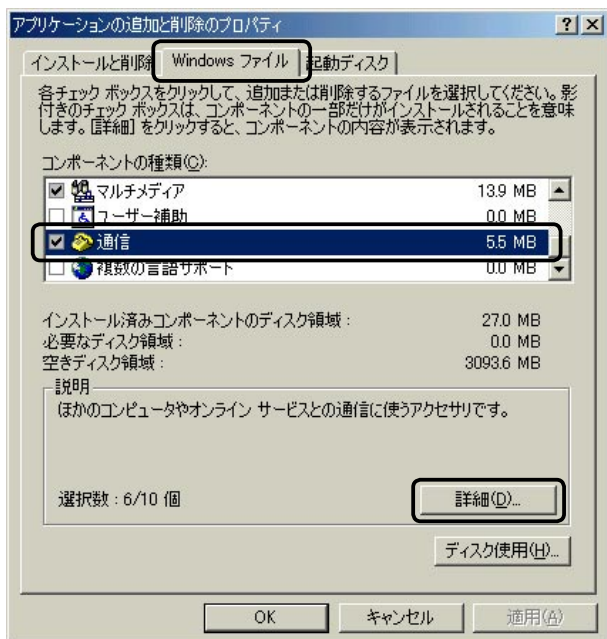
確認

UPnP 機能を使用する前にご利用のパソコンで Windows Update を実行し、常に最新の状態にすることを推奨します。

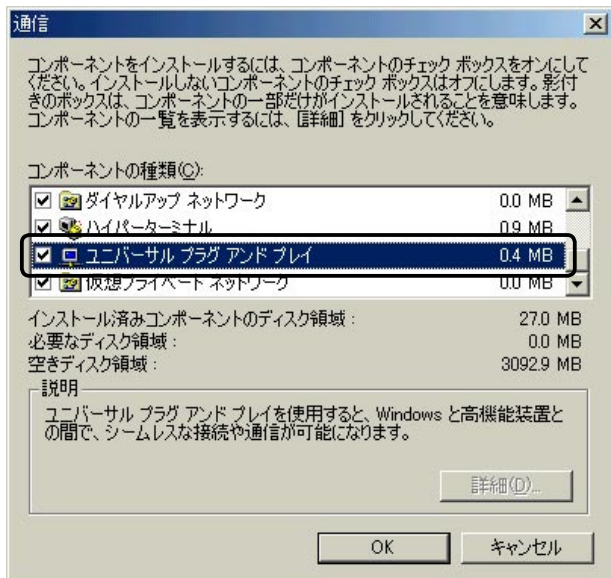
● UPnP サポートの確認

以下の手順でご利用のパソコンに UPnP サポートがインストールされているか確認して下さい。

- ① [マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[アプリケーションの追加と削除]の順番にダブルクリックして下さい。
- ② [Windows ファイル] タブをクリックして下さい。
- ③ 「コンポーネントの種類」欄から「通信」を選択し、[詳細] ボタンをクリックして下さい。



- ④ 「コンポーネントの種類」欄の「ユニバーサルプラグアンドプレイ」にチェックが入っているか確認して下さい。チェックが入っていない場合は、チェックを入れて [OK] ボタンをクリックし、インストールを行って下さい。(インストールする際、Windows の CD-ROM を要求される場合があります。)

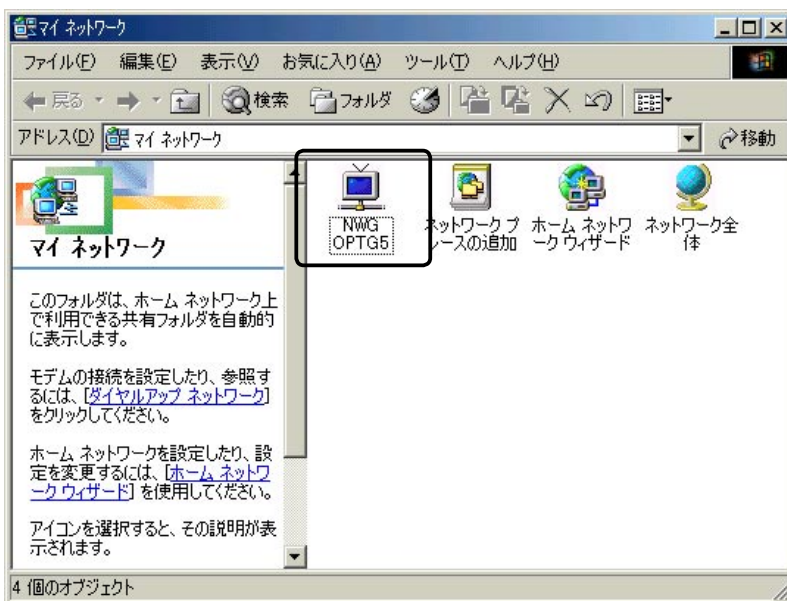


<次ページへ進んで下さい>

● UPnP 機能の動作確認

以下の手順で、UPnP 機能が正しく動作しているか確認して下さい。

- ① デスクトップ上の [マイネットワーク] アイコンをダブルクリックして下さい。
- ② 「NWG OPTG5」アイコンが表示されていることを確認して下さい。



確認

「NWG OPTG5」アイコンをダブルクリックすると、「NetGenesis の設定」画面が開きます。

● MSN Messenger のバージョン確認

ご利用のパソコンに MSN Messenger 5 以降がインストールされているか確認して下さい。

MSN Messenger のバージョンは、MSN Messenger のメニューから [ヘルプ] → [MSN Messenger のバージョン情報] で確認することができます。

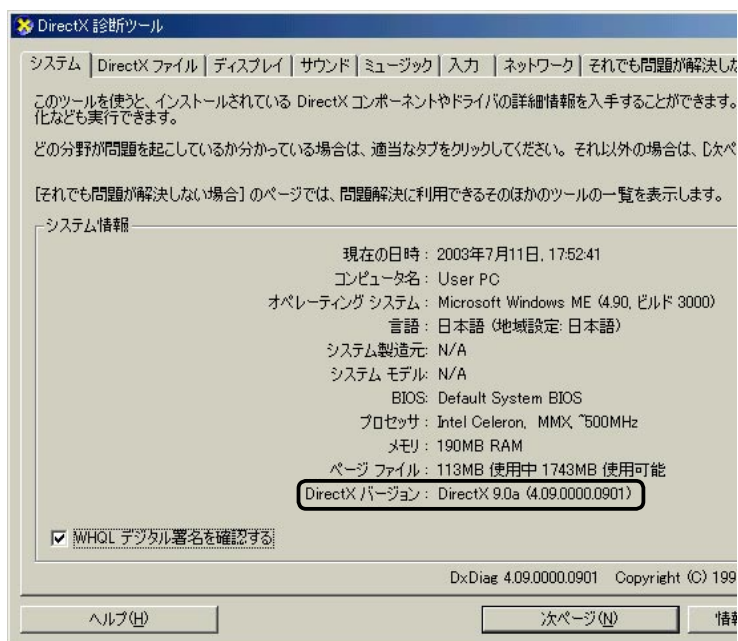


ご利用の MSN Messenger のバージョンが古い場合は、バージョンアップを行って下さい。

● DirectX のバージョン確認

ご利用のパソコンに DirectX8.1 以降がインストールされているか確認して下さい。

DirectX のバージョンは、[スタート] → [ファイル名を指定して実行] を選択し、「dxdiag」と入力して [OK] ボタンをクリックすることで確認することができます。



ご利用の DirectX のバージョンが古い場合は、バージョンアップを行って下さい。

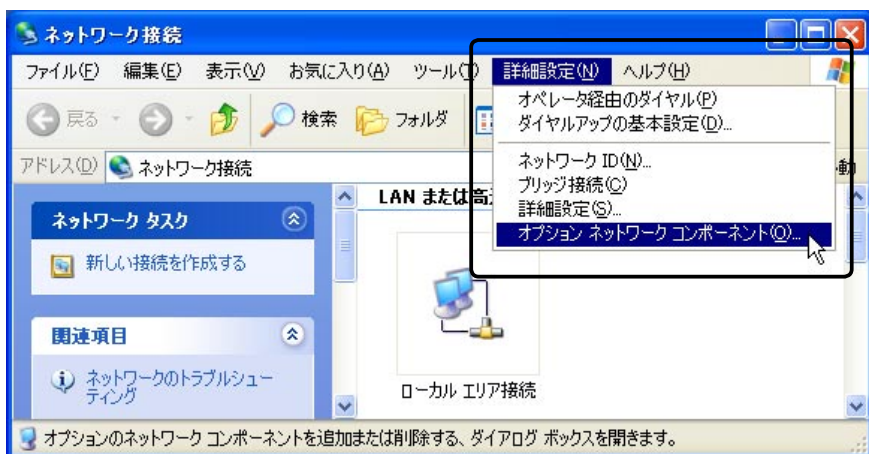
5-4-3. Windows XPでUPnP機能を使用する

確認	<p>UPnP機能を使用する前にご利用のパソコンでWindows Updateを実行し、常に最新の状態にすることを推奨します。設定を行う前に以下の手順でWindows XP Service Pack 2にアップデート済みか確認して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none">①[スタート]→[コントロールパネル]をクリックして下さい。②[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックして下さい。③[システム]をクリックして下さい。④[システムのプロパティ]画面が開きます。 「システム」欄に「Service Pack 2」と表示されている場合は、Service Pack 2にアップデート済みです。
-----------	---

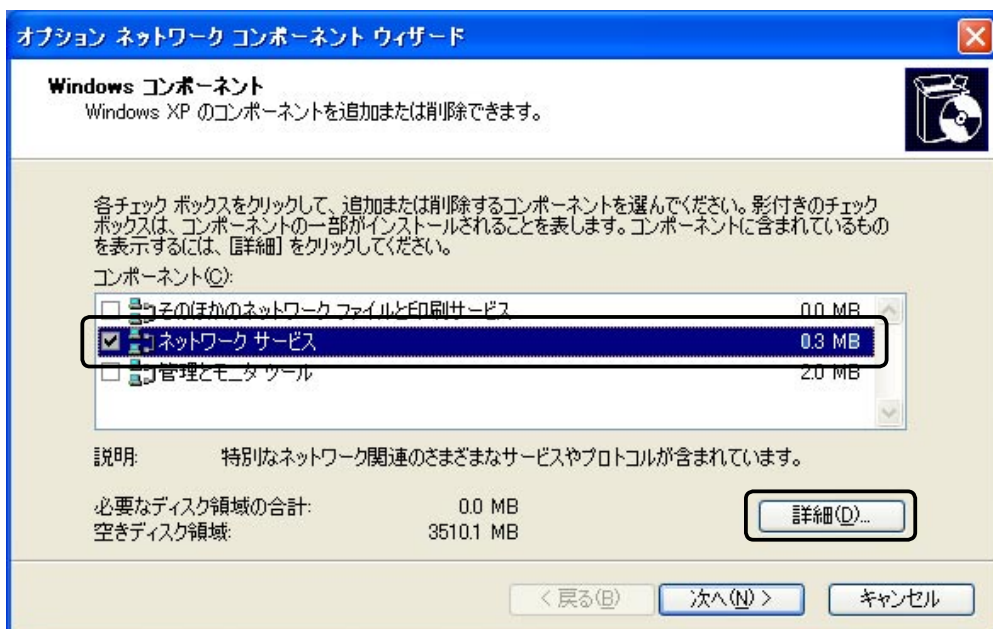
●UPnPサポートの確認

以下の手順でご利用のパソコンにUPnPサポートがインストールされているか確認して下さい。

- ①[スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]の順番をクリックして下さい。
- ②[詳細設定]メニューから[オプションネットワークコンポーネント]をクリックして下さい。



- ③「ネットワークサービス」を選択し、[詳細]ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

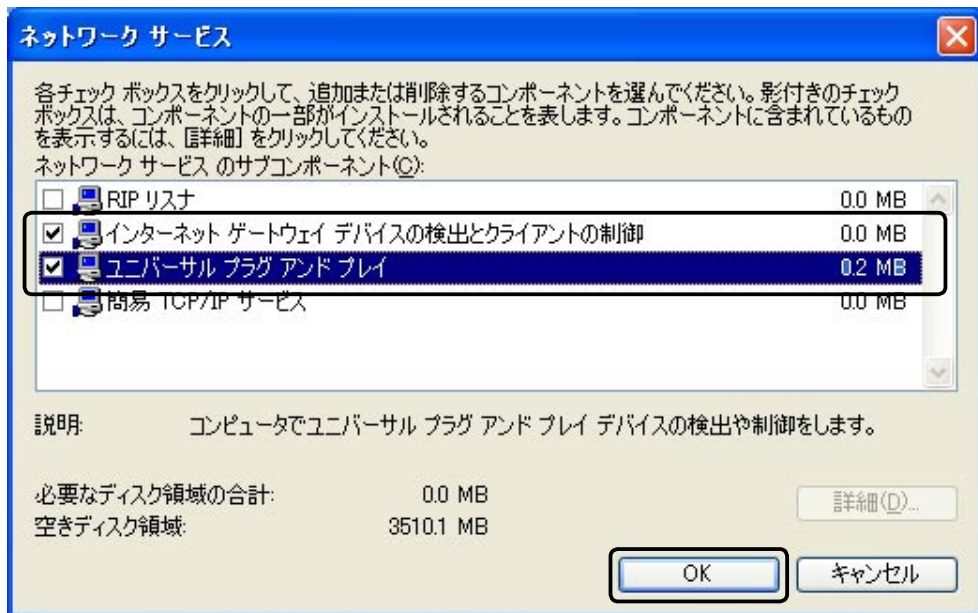
④以下のサービスがインストールされているか確認して下さい。

■ Windows XP / Windows XP Service Pack 1 / Windows XP Service Pack 1a の場合

「インターネット ゲートウェイ デバイスの検出とクライアントの制御」及び、「ユニバーサル プラグ アンド プレイ」にチェックが入っているか確認して下さい。

チェックが入っていない場合は、チェックを入れて[OK]ボタンをクリックし、インストールを行って下さい。

(インストールする際、WindowsのCD-ROMを要求される場合があります。)



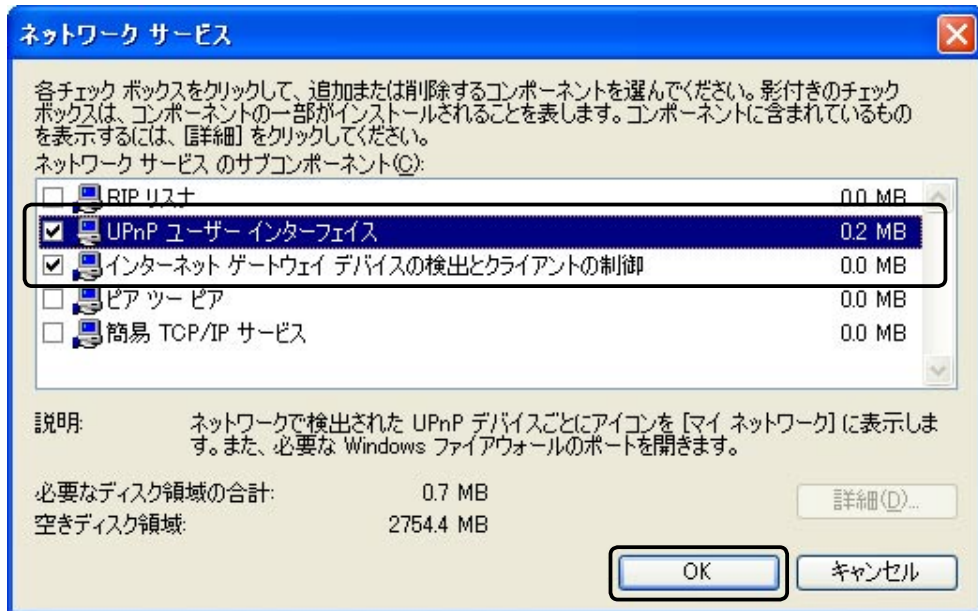
確認 ご利用環境によっては「インターネット ゲートウェイ デバイスの検出とクライアントの制御」が表示されない場合があります。その場合は、「ユニバーサル プラグアンド プレイ」のみチェックを入れて下さい。

■ Windows XP Service Pack 2 の場合

「UPnP ユーザー インターフェイス」及び、「インターネット ゲートウェイ デバイスの検出とクライアントの制御」にチェックが入っているか確認して下さい。

チェックが入っていない場合は、チェックを入れて[OK]ボタンをクリックし、インストールを行って下さい。

(インストールする際、WindowsのCD-ROMを要求される場合があります。)



<次ページへ進んで下さい>

● UPnP 機能の動作確認

以下の手順で、UPnP 機能が正しく動作しているか確認して下さい。

- ①デスクトップ上の[マイネットワーク]アイコンをダブルクリックして下さい。
- ②「NWG OPTG5」アイコンが表示されていることを確認して下さい。



確認	「NWG OPTG5」アイコンをダブルクリックすると、「NetGenesis の設定」画面が開きます。
	Windows XP Service Pack 2 の Windows ファイアウォールの設定によっては、「NWG OPTG5」アイコンが表示されない場合があります。 詳しくは「Windows XP Service Pack 2 使用時の注意点」(次ページ)を参照して下さい。

● Windows Messenger のバージョン確認

ご利用のパソコンに Windows Messenger 5 以降がインストールされているか確認して下さい。

Windows Messenger のバージョンは、Windows Messenger のメニューから [ヘルプ] → [Windows Messenger のバージョン情報] で確認することができます。



ご利用の Windows Messenger のバージョンが古い場合は、バージョンアップを行って下さい。

● Windows Messenger のオーディオに関するアップデート

Windows Update を実行し、更新の一覧に「Windows Messenger のオーディオに関するアップデート」が表示されるか確認して下さい。

表示されている場合は、アップデートを適用して下さい。(表示されていない場合は、アップデート適用済みです。)

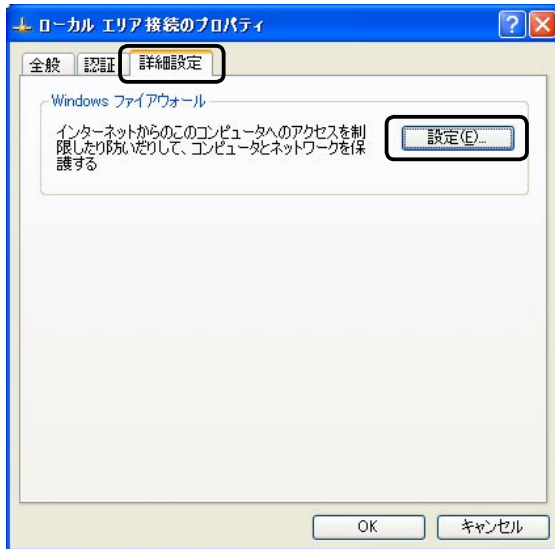
● Windows XP Service Pack 2 使用時の注意点

Windows XP Service Pack 2の「Windows ファイアウォール」の設定によっては、MSN Messenger やWindows Messenger 等のUPnPソフトウェアの通信が遮断される場合があります。
UPnPソフトウェアが正しく動作しない場合は、以下を確認して下さい。

確認

以下の設定を行うと、Windows XPのセキュリティが低下します。
設定を行う際は、自己責任で行って下さい。

- ①[スタート]→[コントロールパネル]の順番にクリックして下さい。
- ②[ネットワークとインターネット接続]をクリックして下さい。
- ③[ネットワーク接続]をクリックして下さい。
- ④[ローカル エリア接続]をダブルクリックして下さい。
- ⑤[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。
- ⑥[詳細設定]タブをクリックし、[設定]ボタンをクリックして下さい。

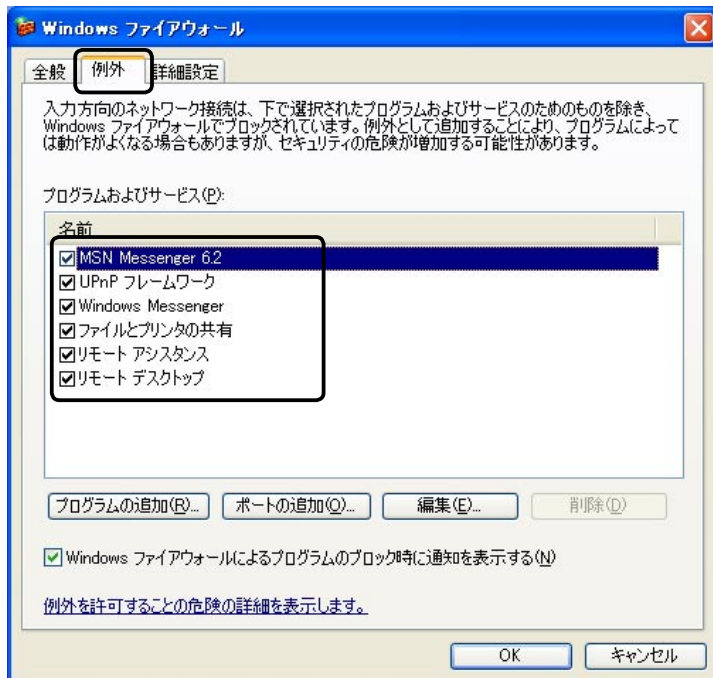


- ⑦「例外を許可しない」チェックボックスにチェックが入っている場合は、チェックを外して下さい。
※ Windows ファイアウォールが無効の場合は、設定を確認する必要はありませんので、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じて下さい。



<次ページへ進んで下さい>

- ⑧ [例外] タブをクリックして下さい。
該当するプログラム、サービスのチェックが外れている場合はチェックを入れて下さい。



- ⑨ 各画面で [OK] ボタンをクリックして画面を閉じて下さい。

5-5. PPPoE マルチセッション機能の設定例

PPPoE マルチセッション機能の設定方法について、ISP 接続とNTT 社フレッツスクウェアへの同時接続を例に説明します。

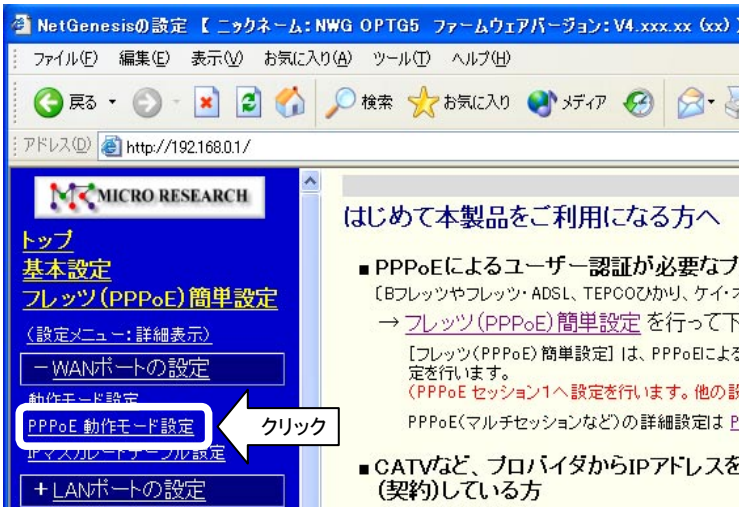
確認	NetGenesis SuperOPT-GFive は 2 箇所への PPPoE 同時接続が可能です。
	PPPoE マルチセッション機能の詳細については、添付の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を WWW ブラウザで参照して下さい。
	本設定例は「PPPoE セッション 1 の設定は完了している」ことを前提として説明しています。 本設定を行う前に PPPoE セッション 1 の設定を完了させて下さい。
	PPPoE セッション 1 の設定については「4-2-1. フレッツ (PPPoE) 簡単設定」(29 ページ) を参照して下さい。
	PPPoE セッション 2 に設定可能な動作モードは「IP アドレス自動取得」のみです。 「IP アドレス固定 (1 ~ 16 個)」設定や「アンナンバード」設定はできません。

5-5-1. PPPoE セッション 2 の設定

以下の手順で PPPoE セッション 2 にフレッツスクウェアに接続するための設定を行って下さい。

確認	以降で省略されている設定箇所については、工場出荷値のままご利用下さい。 省略されている設定箇所の詳細については、添付の CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアル (manual.htm ファイル) を WWW ブラウザで参照して下さい。
----	--

- ①「NetGenesis の設定」画面を起動して下さい。
※「4-1. 設定画面へのログオン」(27 ページ) を参照して下さい。
- ② [WAN ポート設定] をクリックし、「PPPoE 動作モード設定」をクリックして下さい。



- ③「PPPoE セッション 2 を使用する」にチェックを入れ、[セッション 2 詳細設定] ボタンをクリックして下さい。

PPPoE 動作モード設定	
WAN ポートを PPPoE クライアントとして使用する場合の、動作モードの設定 (選択) を行います。 動作モードを選択して [セッション 1 または セッション 2 詳細設定] を行った後、[PPPoE 動作モード適用] ボタンをクリックして下さい。	
<input checked="" type="checkbox"/> PPPoE セッション 1 を使用する	
<input checked="" type="radio"/> IP アドレス自動取得 (※)	[IP アドレス変換有効]
<input type="radio"/> IP アドレス固定 (1~16 個)	[IP アドレス変換有効]
<input type="radio"/> アンナンバード (unnumbered)	[IP アドレス変換無効]
※ [フレッツ (PPPoE) 簡単設定] を行った場合、PPPoE セッション 1 の「IP アドレス自動取得」に設定されます。	
「セッション 1 詳細設定」が完了した後、右のボタンをクリックして下さい。	
<input type="button" value="セッション 1 詳細設定"/>	
<input type="button" value="PPPoE 動作モード適用"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> PPPoE セッション 2 を使用する	
<input checked="" type="radio"/> IP アドレス自動取得	[IP アドレス変換有効]
<input type="button" value="セッション 2 詳細設定"/>	
<input type="button" value="PPPoE 動作モード適用"/>	

＜次ページへ進んで下さい。＞

- ④「PPPoEクライアント設定 -セッション2-」画面が開きます。

PPPoEクライアント設定
- PPPoE セッション2 -

[IPアドレス自動取得 / IPアドレス変換有効]
UPnP機能は本セッション(PPPoE セッション2)では使用できません。

本画面の設定が完了した後
(本画面下の[設定]ボタンをクリックした後)
PPPoE 動作モード設定 へ戻り、
[PPPoE 動作モード適用]ボタンをクリックして下さい。

ニックネーム(接続名称)の設定

ニックネーム(接続名称) (半角英数字のみ入力可能)
◆ここで設定するニックネームは本設定画面中の[PPPoEポート情報・制御]画面に表示されます。

接続情報(アカウント)の設定

- ⑤「ニックネーム(接続名称)の設定」に「Flets Square」など接続先が判別しやすい名称を設定して下さい。(半角英数字のみ、最大31文字まで設定可能です。)

ニックネーム(接続名称)の設定

ニックネーム(接続名称) (半角英数字のみ入力可能)
◆ここで設定するニックネームは本設定画面中の[PPPoEポート情報・制御]画面に表示されます。

- ⑥「接続情報(アカウント)の設定」に以下を設定して下さい。

接続情報(アカウント)の設定

ユーザー名 **[必須]**
パスワード **[必須]**
パスワード再入力 **[必須]**

オプション設定

接続先サーバー名
サービス名
《特に指定が無い場合は必ず空欄にして下さい。》

	NTT 東日本	NTT 西日本
ユーザー名	guest@flets	flets@flets
パスワード パスワード再入力	guest	flets

確認	<p>「接続先サーバー名」、「サービス名」は必ず空欄にして下さい。 上記は平成17年1月の情報です。 将来、変更される場合もありますので、NTT社のホームページから最新情報を入手して下さい。</p>
-----------	---

⑦回線接続方法の設定を行って下さい。

回線接続方法の設定	
<input checked="" type="radio"/> 常時接続	
<input type="radio"/> 自動接続	◆「自動接続」を選択する場合、本画面の「DNS情報の設定」が必要です。 (DNS情報を設定しないと「自動接続」は行われません。)
<input type="radio"/> 手動接続	
無通信自動切断の設定	
<input type="checkbox"/> 無通信自動切断機能を使用する	
送信無通信時間 〔時間:分:秒〕	00:10:00
受信無通信時間 〔時間:分:秒〕	00:10:00
〈工場出荷値:00:10:00 / 設定可能範囲:00:00:10~100:00:00〉	

常時接続:常に接続状態となります。

自動接続:接続要求を検出すると自動的に接続します。

手動接続:手動接続を行わない限り接続しません。

上記で「自動接続」もしくは「手動接続」を選択した場合、無通信自動切断の設定を行うことが可能です。

無通信自動切断機能を使用する:以下で設定する時間内に通信が無かった場合、自動的に回線を切断します。

送信無通信時間:設定した時間内に送信が無い場合、自動的に回線を切断します。

受信無通信時間:設定した時間内に受信が無い場合、自動的に回線を切断します。

確認	「自動接続」及び「手動接続」を選択して、「無通信自動切断機能を使用しない」(チェックを入れない)場合は「手動切断」を行わない限り、NetGenesis SuperOPT-GFiveは回線の切断を行いません。
-----------	---

⑧DNS情報の設定を行って下さい。

DNS情報の設定	
<input checked="" type="checkbox"/> WAN側から取得したDNS情報を優先する	
プライマリDNS	<input type="text"/>
セカンダリDNS	<input type="text"/>
サードDNS	<input type="text"/>
フォースDNS	<input type="text"/>
	◆本画面の「回線接続方法の設定」で「自動接続」を選択する場合、DNS情報を設定する必要があります。 (プライマリDNS~フォースDNSの全てが空欄の場合、「自動接続」は行われません。)

手順⑦で常時接続、手動接続を選択した場合

→工場出荷値*でご利用下さい。

※工場出荷値:「WAN側から取得したDNS情報を優先する」チェック有り、プライマリDNS ~フォースDNS 空欄。

手順⑦で自動接続を選択した場合

→プライマリDNS欄、セカンダリDNS欄に以下を設定して下さい。

	NTT 東日本	NTT 西日本(大阪)	NTT 西日本(大阪以外)
プライマリDNS	220.210.194.67	10.60.20.72	10.60.21.72
セカンダリDNS	220.210.194.68	10.60.20.73	10.60.21.73

確認	プライマリDNS ~フォースDNS が空欄の場合、自動接続しませんので注意して下さい。 上記DNSサーバー IPアドレスは平成17年1月の情報です。 将来、変更される場合もありますので、NTT社のホームページから最新情報を入手して下さい。
-----------	---

<次ページへ進んで下さい。>

⑨全ての設定が完了しましたら、[設定]ボタンをクリックして下さい。

PPTP変換の設定
 PPTP変換を有効にする

DNS情報の設定
 WAN側から取得したDNS情報を優先する
 プライマリDNS
 セカンダリDNS
 サードDNS
 フォースDNS

◆ 本画面の「回線接続方法の設定」で「自動接続」を選択する場合、DNS情報を設定する必要があります。
 (プライマリDNS～フォースDNSの全てが空欄の場合、「自動接続」は行われません。)

下の[設定]ボタンをクリックしても、WANポートの動作モードは変更されません。
 動作モードを変更する場合は、[PPPoE動作モード設定](WANポートの設定)で
 [PPPoE動作モード適用]ボタンをクリックして下さい。

設定 元に戻す

⑩「PPPoEクライアント設定 -セッション2-」画面の先頭に戻りますので「PPPoE動作モード設定」の文字をクリックして下さい。

PPPoEクライアント設定
 - PPPoEセッション2 -

[IPアドレス自動取得 / IPアドレス変換有効]
UPnP機能は本セッション(PPPoEセッション2)では使用できません。

本画面の設定が完了した後
 (本画面下の[設定]ボタンをクリックした後)
PPPoE動作モード設定 クリック
 [PPPoE動作モード適用]ボタンをクリックして下さい。

ニックネーム(接続名称)の設定
 ニックネーム(接続名称) PPPoE2 connection (半角英数字のみ入力可能)
 ◆ここで設定するニックネームは本設定画面中の[PPPoEポート情報・制御]画面に表示されます。

接続情報(アカウント)の設定

⑪「PPPoE動作モード設定」画面に戻りますので、[PPPoE動作モード適用]ボタンをクリックして下さい。

PPPoE動作モード設定

WANポートをPPPoEクライアントとして使用する場合の、動作モードの設定(選択)を行います。
 動作モードを選択して[セッション1]または[セッション2 詳細設定]を行った後、[PPPoE動作モード適用]ボタンをクリックして下さい。

PPPoEセッション1を使用する

IPアドレス自動取得(*) [IPアドレス変換有効]
 IPアドレス固定(1~16個) [IPアドレス変換有効]
 アンナンバード(unnumbered) [IPアドレス変換無効]

※ [フレッツ(PPPoE)簡単設定]を行った場合、PPPoEセッション1の「IPアドレス自動取得」に設定されます。 [セッション1 詳細設定]

「セッション1 詳細設定」が完了した後、右のボタンをクリックして下さい。 PPPoE動作モード適用

PPPoEセッション2を使用する

IPアドレス自動取得 [IPアドレス変換有効] [セッション2 詳細設定]

「セッション2 詳細設定」が完了した後、右のボタンをクリックして下さい。 PPPoE動作モード適用

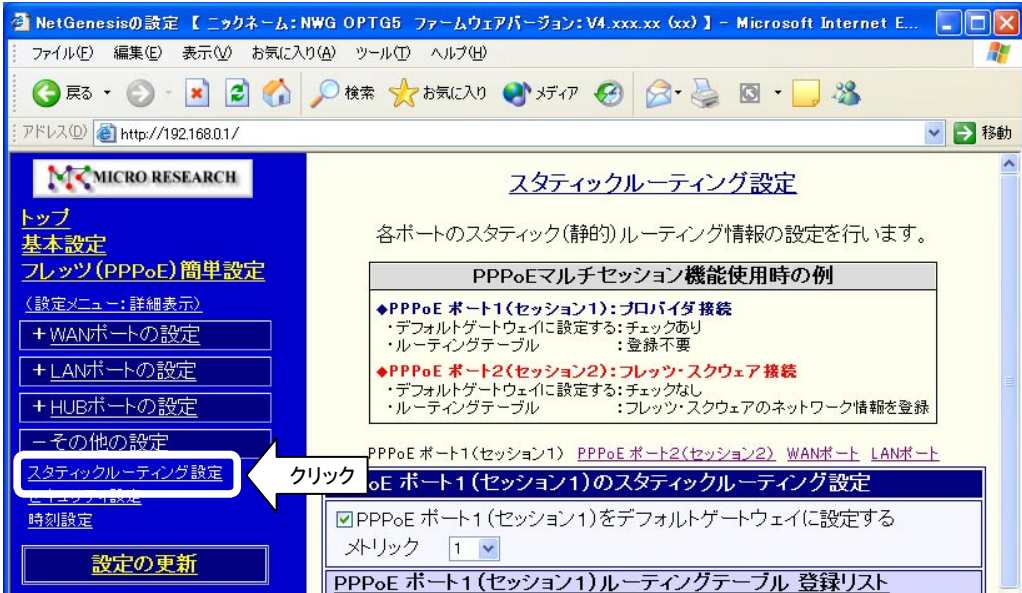
確認 必ず[PPPoE動作モード適用]ボタンをクリックして下さい。
 [PPPoE動作モード適用]ボタンをクリックしないで設定を更新した場合、PPPoEセッション2は動作しませんので注意して下さい。

以上で「PPPoEセッション2の設定」は完了です。
 「5-4-2. スタティックルーティングの設定」(次ページ)へ進んで下さい。

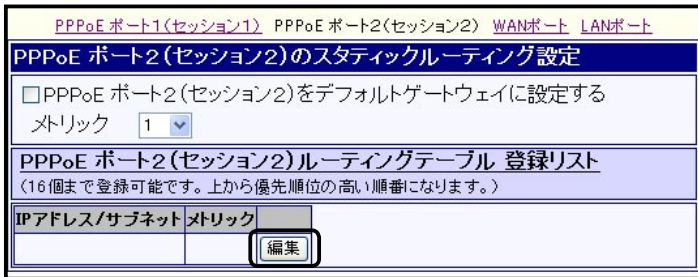
5-5-2. スタティックルーティングの設定

以下の手順でスタティックルーティングの設定を行って下さい。

- ① [その他の設定] をクリックし、「スタティックルーティング設定」をクリックして下さい。



- ② 「PPPoE ポート2(セッション2)のスタティックルーティング設定」欄の[編集]ボタンをクリックして下さい。



確認 「PPPoE ポート2(セッション2)をデフォルトゲートウェイに設定する」のチェックは入れないで下さい。

<次ページへ進んで下さい。>

③以下のテーブルを追加して下さい。

NTT 東日本		NTT 西日本	
IPアドレス / サブネット	メトリック	IPアドレス / サブネット	メトリック
220.210.194.0/25	1	10.0.0.0/8	1
220.210.195.0/26	1	-	-
220.210.195.64/26	1	-	-
220.210.197.128/25	1	-	-
220.210.198.0/26	1	-	-
220.210.198.128/26	1	-	-
220.210.199.0/27	1	-	-
220.210.199.128/28	1	-	-
220.210.199.160/28	1	-	-

確認 NTT 東日本でお使いの方は、9個のテーブル全てを追加して下さい。
 上記ルーティング(経路)情報は平成17年1月の情報です。
 将来、変更される場合もありますので、NTT社のホームページから最新情報を入手して下さい。

◆ルーティングテーブルの追加方法

④ルーティングテーブルの追加が完了しましたら、「スタティックルーティング設定」画面を一番下までスクロールして「設定」ボタンをクリックして下さい。

⑤設定の更新を行って下さい。
 ※設定の更新方法については「4-3. 設定の更新」(36ページ)を参照下さい。

以上でスタティックルーティングの設定は完了です。

5-5-3. PPPoE ポートの制御

PPPoE ポートの制御について説明します。

回線接続方法で「自動接続」もしくは「手動接続」を選択した場合、PPPoE ポートの制御を行うことができます。

- ①「NetGenesis の設定」画面を起動して下さい。
※「4-1. 設定画面へのログオン」(27 ページ)を参照して下さい。
- ②「PPPoE ポート情報・制御」をクリックして下さい。
「PPPoE ポート情報・制御」画面が開きます。

●未接続時

PPPoE ポート2 (セッション2・S04)		接続
ニックネーム(接続名称)	: Flets Square	
接続モード(回線接続方法)	: 手動接続	
状態	: 切断状態	
接続時間	:	
取得した自IPアドレス	:	
取得した相手IPアドレス	:	
取得したプライマリDNS	:	
取得したセカンダリDNS	:	

[接続]ボタンが表示されます。
[接続]ボタンをクリックすると回線が接続されます。
接続が完了すると、接続時の画面になります。

●接続時

PPPoE ポート2 (セッション2・S04)		切断
ニックネーム(接続名称)	: Flets Square	
接続モード(回線接続方法)	: 手動接続	
状態	: 接続状態	
接続時間	: 0:10:00	
取得した自IPアドレス	: xxx.xxx.xxx.111	
取得した相手IPアドレス	: xxx.xxx.xxx.150	
取得したプライマリDNS	: xxx.xxx.xxx.151	
取得したセカンダリDNS	: xxx.xxx.xxx.152	

[切断]ボタンが表示されます。
[切断]ボタンをクリックすると回線が切断されます。
切断が完了すると、未接続時の画面に戻ります。

5-6 困ったときは(Q&A)

本書で解説している設定方法を行う上で、「設定できない」、「つながらない」等トラブルが発生した場合の対処法や確認事項です。サポートセンターへお問い合わせになる前に、一度お読み下さい。



CD-ROMに収録されている、ユーザーズマニュアル(manual.htm ファイル)には、より詳細なQ&Aが記載されています。そちらも参照して下さい。

- Q. 設定画面へログオンできない。…………… 59
- Q. 設定したパスワードの文字数が増えて(減って)いる。…………… 59
- Q. NetGenesis の設定画面を起動すると、既存の設定内容が違っている。…………… 59
- Q. インターネットに接続できない。
(「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行った場合)…………… 60
- Q. インターネットに接続できない。
(WANポートの設定でDHCPクライアント機能を使用している場合)…………… 61
- Q. インターネットに接続できない。
(WANポートの設定でIPアドレスを指定している場合)…………… 61
- Q. PPPoE セッション2が接続できない。(常時接続、手動接続)…………… 62
- Q. PPPoE セッション2が接続できない。(自動接続)…………… 63
- Q. WindowsでWWWブラウザや電子メールソフトを起動すると
「ダイヤルアップネットワーク」(ダイヤルアップ接続)の画面が表示される。…………… 64
- Q. 2台目以降のパソコンではどのような設定をしたらよいか?…………… 64
- Q. インターネットに接続できるが、速度が遅い。…………… 64
- Q. 一部ホームページが表示できない。…………… 64
- Q. 回線終端装置もしくはNetGenesis SuperOPT-GFiveの電源を落としたところ、
電源を再投入してもインターネットへ接続できなくなった。(PPPoE接続時)…………… 64
- Q. NTT社のVoIPアダプタ(テレフォニーアダプタ)を使用するために必要な設定は?…………… 64
- Q. ネットワークゲームが動作しない。…………… 65
- Q. インターネットホームページのサウンドやビデオが正しく再生されない。…………… 65
- Q. ファームウェアのバージョンを知りたい。…………… 65
- Q. NetGenesisのMACアドレスを知りたい…………… 65
- Q. 全ての設定を工場出荷値に戻したい。…………… 65

Q. 設定画面へログオンできない。

- NetGenesis SuperOPT-GFive の電源は ON になっていますか？
- パソコンの電源を入れる前に、NetGenesis SuperOPT-GFive の電源を入れましたか？
NetGenesis SuperOPT-GFive の電源を入れてから、パソコンを再起動して下さい。
- NetGenesis SuperOPT-GFive とパソコンがツイストペアケーブルで正しく接続されていますか？
NetGenesis SuperOPT-GFive 前面の L1 ~ L4 ランプが点灯しているか確認して下さい。
- HUB を経由してパソコンを接続している場合、NetGenesis SuperOPT-GFive と HUB が正しく接続されていますか？
NetGenesis SuperOPT-GFive 前面の L1 ~ L4 ランプが点灯しているか確認して下さい。
- パソコンにイーサネットボードが正しくセットアップされていますか？
イーサネットボードのマニュアル等を参照して下さい。
- パソコンの TCP/IP プロトコルは正しく設定されていますか？
「3. パソコンの設定」(14 ページ)を参照して下さい。
- WWW ブラウザの設定を確認して下さい。
「3-7-1. WWW ブラウザの設定」(23 ページ)を参照して下さい。
- パソコンに PPPoE ソフトウェア (フレッツ接続ツール等) がインストールされていませんか？
PPPoE ソフトウェアのマニュアルやヘルプ等を参照して PPPoE ソフトウェアをアンインストールして下さい。
- NetGenesis SuperOPT-GFive の IP アドレスを変更していませんか？
NetGenesis SuperOPT-GFive をリセットして、再度試して下さい。
リセット方法については「Q. 全ての設定を工場出荷値に戻したい」(65 ページ)を参照して下さい。
- セキュリティソフトウェアを起動していませんか？
例) シマンテック社「ノートン・インターネットセキュリティ」シリーズ
トレンドマイクロ社「ウィルスバスター」シリーズ 等々
セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能が、パソコンと NetGenesis SuperOPT-GFive の通信を遮断してしまう場合があります。
NetGenesis SuperOPT-GFive の設定を行う際は、セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を停止して下さい。
ファイアウォール機能を停止してもユーザー認証画面が表示されない場合は、セキュリティソフトウェアを終了させて下さい。
- Windows で Internet Explorer を使用している場合は、以下の手順で設定を初期化して下さい。
 - ① Internet Explorer の [ツール] メニューから [インターネットオプション] をクリックして下さい。
 - ② [セキュリティ] タブをクリックして下さい。
 - ③ 「インターネット」をクリックし、「このゾーンのセキュリティのレベル」欄の [既定値のレベル] ボタンをクリックして下さい。
 - ④ [詳細設定] タブをクリックして下さい。
 - ⑤ [既定値に戻す] ボタンをクリックして下さい。
 - ⑥ [適用] ボタンをクリックし、[OK] ボタンをクリックして下さい。

Q. 設定したパスワードの文字数が増えて (減って) いる。

設定画面を閉じて、再度開くとパスワードの文字数 (● や * の数) が実際に入力した数より増えて (減って) いることがありますが、特に問題はありません。
設定画面に表示される「パスワード」及び「パスワード再入力」欄は、実際に入力したパスワードの文字数に関係なく、必ず決まった文字数で表示されます。
表示されるパスワードの文字数は、使用している WWW ブラウザやそのバージョンによって異なります。

Q. 「NetGenesis の設定」画面を起動すると、既存の設定内容が違っている。

NetGenesis の設定を変更した後、設定の更新を行わずに WWW ブラウザを終了してしまうと、「一時保存領域」の設定情報と、「フラッシュ ROM」の設定情報が異なる状態が発生してしまいます。
(「NetGenesis の設定」画面は起動時に、「一時保存領域」に保存された設定情報を読み込みます。)
もし、このような状態になってしまった場合は、NetGenesis の設定画面のメニューから「NetGenesis の再起動」をクリックし、NetGenesis を再起動して一時保存領域の内容を消去して下さい。

- 一時保存領域
→ 「NetGenesis の設定」画面で、[設定] ボタンをクリックした場合や、[フレッツ (PPPoE) 簡単設定] の警告画面で [はい] ボタンをクリックした場合に設定内容が一時的に保存される領域です。
NetGenesis の電源を OFF/ON すると消去されます。
- フラッシュ ROM
→ NetGenesis が実際に動作する設定が保存されている領域です。
「設定の更新」画面の [更新] ボタンをクリックすることにより、「一時保存領域」の設定内容を「フラッシュ ROM」に書き込みます。
NetGenesis の電源を OFF/ON しても消去されません。

Q. インターネットに接続できない。

(「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行った場合)

「5-2. SYSLOG機能の使用方法」(39ページ)を参照して、SYSLOGを表示してISPとの接続が完了しているか確認して下さい。

●「Connect successfully」と表示される場合

```
NWG OPT V4.xxx Syslog start.
S03:POE: Open start.
S03:POE: Discovery stage start.
S03:POE: Discovery stage opened.
S03:POE: Session stage start.
S03:PPP: Open start.
S03:PPP: LCP UP.
S03:PPP: LCP UP.
S03:PPP: CHAP UP.
S03:PPP: IPCP UP. My IP=xxx.xxx.xxx.xxx, Peer IP=yyy.yy.yyy.yyy
S03:PPP: PridNS=111.111.111.111, SecDNS=222.222.222.222
S03:POE: Session stage opened.
S03: : Connect successfully.(--:--:--)
```

ISPとの接続は完了しています。

ソフトウェアの設定が正しくされているか確認して下さい。

→「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)を参照して下さい。

●「Discovery stage start.」で止まる場合

```
NWG OPT V4.xxx Syslog start.
S03:POE: Open start.
S03:POE: Discovery stage start.
```

・回線終端装置とNetGenesis SuperOPT-GFive(WANポート)の接続を確認して下さい。

→「2-3. 各機器との接続」(9ページ)を参照して下さい。

・回線終端装置、またはNetGenesis SuperOPT-GFiveの電源を落とした場合、PPPoEの切断処理が正しく行われなため、一定時間再接続できない場合があります。

→再接続が可能になるまで、以下の時間お待ち下さい。

・フレッツADSLで、NTT東日本の場合は5分以上

・フレッツADSLで、NTT西日本の場合は30分以上

・Bフレッツの場合は5分以上

※回線の再接続に関する動作や時間の詳細は、回線事業者にお問い合わせ下さい。

・回線側で障害が発生していませんか？

→回線終端装置とパソコンを直接接続して(NetGenesis SuperOPT-GFiveを介さない状態にして)インターネットへ接続できるか確認して下さい。

(パソコンにPPPoEソフトウェア(フレッツ接続ツール等)をインストールする必要があります。)

接続できない場合は、回線事業者またはISPへお問い合わせ下さい。

●「CHAP DOWN.」、または「PAP DOWN」と表示される場合

```
NWG OPT V4.xxx Syslog start.
S03:POE: Open start.
S03:POE: Discovery stage start.
S03:POE: Discovery stage opened.
S03:POE: Session stage start.
S03:PPP: Open start.
S03:PPP: LCP UP.
S03:PPP: LCP UP.
S03:PPP: CHAP DOWN.
S03:PPP: LCP DOWN.
S03:POE: Session stage closed.
S03:POE: Closed(Closed session stage).
S03: : Disconnect successfully, duration 00:00:02.(--:--:--)
```

SYSLOGに「CHAP DOWN.」または「PAP DOWN」と表示された場合、ユーザー名やパスワードに誤りがあります。

ユーザー名、パスワードを確認して下さい。

◆ユーザー ID、パスワードを確認、修正する場合

ユーザー ID、パスワードを確認(修正)する場合は、「PPPoEクライアント設定」画面を開いて設定を行って下さい。

(「フレッツ(PPPoE)簡単設定」を行うと既存の設定は初期化されてしまいます。)

【PPPoE動作クライアント設定画面を開く手順】

①設定画面へログイン→②[WANポートの設定]をクリック→③[PPPoE動作モード設定]をクリック

→④[セッション1 詳細設定]ボタンをクリック

Q. インターネットに接続できない。

(WANポートの設定でDHCPクライアント機能を使用している場合)

「5-3. ISPから自動取得したIPアドレスの確認方法」(41ページ)を参照して、IPアドレスが正しく取得できているか確認して下さい。

- IPアドレスが正しく取得できている場合
ソフトウェアの設定が正しくされているか確認して下さい。
→「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)を参照して下さい。
- IPアドレスが正しく取得できていない場合
 - 回線終端装置とNetGenesis SuperOPT-GFive(WANポート)の接続を確認して下さい。
→「2-3. 各機器との接続」(9ページ)を参照して下さい。
 - NetGenesis SuperOPT-GFiveにパソコンを接続する前に、パソコンのIPアドレスの解放を行いましたか？
→「2-2. 設置前に確認すること」(5ページ)を参照して下さい。
 - ケーブルモデムを使用している場合、NetGenesis SuperOPT-GFiveを接続する前にMACアドレス(物理アドレス)の消去を行いましたか？
→「MACアドレス記憶型のケーブルモデムについて」(6ページ)を参照して下さい。
 - ホスト名(コンピューター名)の入力が必要なISPへ接続する場合、正しく入力されていますか？
→「4-2-2. DHCPクライアント機能を使う(CATV、Yahoo!BB等)」(31ページ)を参照して下さい。
 - ISPに接続するネットワーク機器のMACアドレス(物理アドレス)の登録が必要な場合NetGenesis SuperOPT-GFiveのWANポートのMACアドレスをISPに登録して下さい。
→「5-1. ファームウェアバージョン情報とMACアドレスの確認方法」(38ページ)を参照して下さい。
 - 回線側で障害が発生していませんか？
→回線終端装置とパソコンを直接接続して(NetGenesis SuperOPT-GFiveを介さない状態にして)インターネットへ接続できるか確認して下さい。
接続できない場合は、回線事業者またはISPへお問い合わせ下さい。

Q. インターネットに接続できない。

(WANポートの設定でIPアドレスを指定している場合)

- ソフトウェアの設定が正しくされているか確認して下さい。
→「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)を参照して下さい。
- NetGenesis SuperOPT-GFiveのWANポートに、ネットワークアドレスまたはIPアドレスが正しく設定されているか確認して下さい。
→「4-2-3. IPアドレスを指定する(CATV、IPアドレス指定のISP等)」(33ページ)を参照して下さい。
- 回線終端装置とNetGenesis SuperOPT-GFive(WANポート)の接続を確認して下さい。
→「2-3. 各機器との接続」(9ページ)を参照して下さい。
- ケーブルモデムを使用している場合、NetGenesis SuperOPT-GFiveと接続する前にMACアドレス(物理アドレス)の消去を行いましたか？
→「MACアドレス記憶型のケーブルモデムについて」(6ページ)を参照して下さい。
- 回線側で障害が発生していませんか？
→回線終端装置とパソコンを直接接続して(NetGenesis SuperOPT-GFiveを介さない状態にして)インターネットへ接続できるか確認して下さい。
接続できない場合は、回線事業者またはISPへお問い合わせ下さい。

Q.PPPoE セッション2が接続できない。(常時接続、手動接続)

「5-2. SYSLOG機能の使用方法」(39ページ)を参照して、SYSLOGを表示してPPPoEセッション2(S04ポート)の接続が完了しているか確認して下さい。

(手動接続の場合は、「PPPoE情報・制御」画面で[接続]ボタンを押してから確認して下さい。)

- SYSLOGの最後の行に「Connect successfully」と表示される場合

```
S04:POE: Open start.  
S04:POE: Discovery stage start.  
S04:POE: Discovery stage opened.  
S04:POE: Session stage start.  
S04:PPP: Open start.  
S04:PPP: LCP UP.  
S04:PPP: CHAP UP.  
S04:PPP: IPCP UP. My IP=xxx.xxx.xxx.xxx.xxx, Peer IP=yyy.yy.yyy.yyy  
S04:PPP: PriDNS=111.111.111.111, SecDNS=222.222.222.222  
S04:POE: Session stage opened.  
S04: : Connect successfully.--:--:--
```

接続は完了しています。

スタティックルーティングの設定が正しくされているか確認して下さい。

→「5-5-2. スタティックルーティングの設定」(55ページ)を参照して下さい。

- SYSLOGが「Discovery stage start.」で止まる場合

```
S04:POE: Open start.  
S04:POE: Discovery stage start.
```

- 回線側で障害が発生していませんか？

→回線終端装置とパソコンを直接接続して(NetGenesis SuperOPT-GFiveを介さない状態にして)接続できるか確認して下さい。

(パソコンにPPPoEソフトウェア(フレッツ接続ツール等)をインストールする必要があります。)

接続できない場合は、回線事業者またはISPへお問い合わせ下さい。

- 「接続先サーバー名」、「サービス名」に不要な設定をしていませんか？

→「PPPoEクライアントの設定」で「接続先サーバー名」、「サービス名」に文字を入力した場合は空欄にして下さい。

詳しくは「5-5-1. PPPoEセッション2の設定」(51ページ)を参照して下さい。

- SYSLOGに「CHAP DOWN.」、または「PAP DOWN」と表示される場合

```
S04:POE: Open start.  
S04:POE: Discovery stage start.  
S04:POE: Discovery stage opened.  
S04:POE: Session stage start.  
S04:PPP: Open start.  
S04:PPP: LCP UP.  
S04:PPP: CHAP DOWN.  
S04:PPP: LCP DOWN.
```

SYSLOGに「CHAP DOWN.」または「PAP DOWN」と表示された場合、ユーザー名やパスワードに誤りがあります。ユーザー名、パスワードを確認して下さい。

詳しくは「5-5-1. PPPoEセッション2の設定」(51ページ)を参照して下さい。

Q.PPPoEセッション2が接続できない。(自動接続)

「5-2. SYSLOG機能の使用方法」(39ページ)を参照して、SYSLOGを表示してPPPoEセッション2(S04ポート)の接続が完了しているか確認して下さい。

●SYSLOGの最後の行に「Connect successfully」と表示される場合

```
$04: : [CONNECT REQ] UDP frame received, xxx.xxx.xxx.xxx(xxxx) -> xxx.xxx.xxx.xxx(xxxx).
$04:POE: Open start.
$04:POE: Discovery stage start.
$04:POE: Discovery stage opened.
$04:POE: Session stage start.
$04:PPP: Open start.
$04:PPP: LCP UP.
$04:PPP: CHAP UP.
$04:PPP: IPCP UP. My IP=xxx.xxx.xxx.xxx, Peer IP=yyy.yy.yyy.yyy
$04:PPP: PriDNS=111.111.111.111, SecDNS=222.222.222.222
$04:POE: Session stage opened.
$04: : Connect successfully.(--:--:--)
```

接続は完了しています。

スタティックルーティングの設定が正しくされているか確認して下さい。

→「5-5-2. スタティックルーティングの設定」(55ページ)を参照して下さい。

●SYSLOGに「[CONNECT REQ]」が表示されない場合

・パソコンのTCP/IPプロトコル(DNSサーバーの設定)は正しく設定されていますか？

→「3. パソコンの設定」(14ページ)を参照して下さい。

・「PPPoEクライアント設定」の「DNS情報」にDNSサーバーIPアドレスを設定していますか？

→DNSサーバーIPアドレスが設定されていないと自動接続しません。

詳しくは「5-5-1. PPPoEセッション2の設定」(51ページ)を参照して下さい。

●SYSLOGが「Discovery stage start.」で止まる場合

```
$04: : [CONNECT REQ] UDP frame received, xxx.xxx.xxx.xxx(xxxx) -> xxx.xxx.xxx.xxx(xxxx).
$04:POE: Open start.
$04:POE: Discovery stage start.
```

・回線側で障害が発生していませんか？

→回線終端装置とパソコンを直接接続して(NetGenesis SuperOPT-GFiveを介さない状態にして)接続できるか確認して下さい。

(パソコンにPPPoEソフトウェア(フレッツ接続ツール等)をインストールする必要があります。)

接続できない場合は、回線事業者またはISPへお問い合わせ下さい。

・「接続先サーバー名」、「サービス名」に不要な設定をしていませんか？

→「PPPoEクライアントの設定」で「接続先サーバー名」、「サービス名」に文字を入力した場合は空欄にして下さい。

詳しくは「5-5-1. PPPoEセッション2の設定」(51ページ)を参照して下さい。

●SYSLOGに「CHAP DOWN.」、または「PAP DOWN」と表示される場合

```
$04: : [CONNECT REQ] UDP frame received, xxx.xxx.xxx.xxx(xxxx) -> xxx.xxx.xxx.xxx(xxxx).
$04:POE: Open start.
$04:POE: Discovery stage start.
$04:POE: Discovery stage opened.
$04:POE: Session stage start.
$04:PPP: Open start.
$04:PPP: LCP UP.
$04:PPP: CHAP DOWN.
$04:PPP: LCP DOWN.
```

SYSLOGに「CHAP DOWN.」または「PAP DOWN」と表示された場合、ユーザー名やパスワードに誤りがあります。ユーザー名、パスワードを確認して下さい。

詳しくは「5-5-1. PPPoEセッション2の設定」(51ページ)を参照して下さい。

Q.WindowsでWWWブラウザや電子メールソフトを起動すると「ダイヤルアップネットワーク」(ダイヤルアップ接続)の画面が表示される。

ソフトウェアの設定が「LANを使用してインターネットに接続する」設定になっているか確認して下さい。
→「3-7. ソフトウェアの設定」(23ページ)を参照して下さい。

Q. 2台目以降のパソコンではどのような設定をしたらよいか？

NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定(WANポートの設定)は、一度行えばNetGenesis SuperOPT-GFive内部のフラッシュROMに設定が書き込まれますので、2台目以降のパソコンから設定を行う必要はありません。
2台目以降のパソコンでは、「3. パソコンの設定」(14ページ)の設定のみ行えば、インターネットへ接続することができます。

Q. インターネットに接続できるが、通信速度が遅い。

以下の項目を確認して下さい。

- **回線終端装置の速度(接続)設定を変更していませんか？**
回線終端装置(ONU、メディアコンバーター等)の中には、ディップスイッチ等で速度設定を変更できる機種があります。速度設定をAutoモード(オートネゴシエーション有効)以外に設定すると、通信速度が低下することがあります。回線終端装置の速度設定は必ずAutoモードにして下さい。
設定変更方法については回線終端装置のマニュアルを参照して下さい。
- **パソコンに搭載されているイーサネットボードの速度(接続)設定を変更していませんか？**
イーサネットボードの設定で速度設定を変更している場合、通信速度が低下することがあります。イーサネットボードの速度設定は、Autoモード(オートネゴシエーション有効)に設定して下さい。
設定変更方法についてはイーサネットボードのマニュアルを参照して下さい。
- **セキュリティソフトウェアが稼働していませんか？**
例)シマンテック社「ノートン・インターネットセキュリティ」シリーズ
トレンドマイクロ社「ウィルスバスター」シリーズ 等々
インターネット通信を常時監視するソフトウェアが起動・常駐している場合、通信速度が低下することがあります。それらのソフトウェアを使用している場合は、ソフトウェアのマニュアル等を参照して停止(終了)して下さい。

Q. 一部ホームページが表示できない。

- **NetGenesis SuperOPT-GFiveのMTU/MRU値を変更していませんか？**
 - ◆ **PPPoEクライアント機能使用時**
「PPPoEクライアントのオプション設定」のMTU値を変更した場合は、工場出荷値(1454)へ戻して下さい。
詳しくはCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)を参照して下さい。
(MTU値の設定方法は本書では解説していません。)
 - ◆ **DHCPクライアント機能もしくはIPアドレス固定機能使用時**
WANポートのMTU/MRU値(ジャンボフレーム)の設定を変更した場合は、工場出荷値(MTU:1514/MRU:13308)へ戻して下さい。
詳しくはCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)を参照して下さい。
(MTU/MRU値の設定については本書では解説していません。)
- **PPPoEクライアント機能使用時の場合、「MSS CLAMPを使用する」のチェックが外れていませんか？**
PPPoEクライアントオプション設定の「MSS CLAMPを使用する」にチェックを入れて下さい。(工場出荷値、チェック有)
詳しくはCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)を参照して下さい。
(MSS CLAMPの設定については本書では解説していません。)

Q. 回線終端装置もしくはNetGenesis SuperOPT-GFiveの電源を落としたところ、電源を再投入してもインターネットへ接続できなくなった。(PPPoE接続時)

回線終端装置、またはNetGenesis SuperOPT-GFiveの電源を落とした場合、PPPoEの切断処理が正しく行われなため、一定時間再接続できない場合があります。

→再接続が可能になるまで、以下の時間お待ち下さい。

- ・フレッツADSLで、NTT東日本の場合は5分以上
- ・フレッツADSLで、NTT西日本の場合は30分以上
- ・Bフレッツの場合は5分以上

※回線の再接続に関する動作や時間の詳細は、回線事業者にお問い合わせ下さい。

Q.NTT社のVoIPアダプタ(テレフォニーアダプタ)を使用するために必要な設定は？

NetGenesis SuperOPT-GFiveのLAN内で、NTT社のVoIPアダプタ(テレフォニーアダプタ)を使用するためには、NetGenesis SuperOPT-GFiveのUPnP機能を有効にする必要があります。
UPnP機能の有効/無効の切り替え方法については「5-4-1.NetGenesis SuperOPT-GFiveの設定」(42ページ)を参照して下さい。

Q. ネットワークゲームが動作しない。

Q. インターネットホームページのサウンドやビデオが正しく再生されない。

ネットワークゲームやインターネットのホームページのサウンドやビデオの再生を行う場合、DMZホスト機能の設定、もしくはIPマスカレードテーブルの設定が必要になる場合があります。

詳しくは付属のCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアル(manual.htmファイル)の「10. サーバー公開やネットワークゲームを行う」を参照して下さい。

(本書では解説していません。)

Q. ファームウェアのバージョンを知りたい。

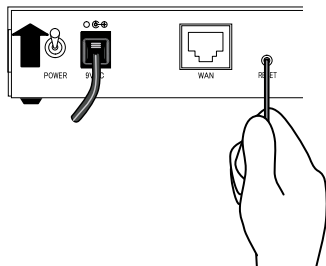
Q. NetGenesisのMACアドレスを知りたい。

NetGenesisの設定画面で確認することができます。

詳しくは「5-1. ファームウェアバージョン情報とMACアドレスの確認方法」(38ページ)を参照して下さい。

Q. 全ての設定を工場出荷値に戻したい。

「RESET」ボタンを細い棒等で押したまま電源を投入し、そのまま10秒以上押し続けるとすべての設定が工場出荷値に戻ります。(下図参照)



「RESET」ボタンを細い棒等で押したまま電源を投入して下さい。
「RESET」ボタンは、電源投入後、そのまま10秒以上押し続けて下さい。

5-7. ユーザーサポートについて

● ユーザーサポートについて

NetGenesisに関する操作方法や技術的なお問い合わせは以下で受け付けています。

- ◆ サポートセンター直通電話番号：03-3458-9031
- ◆ 営業時間：土・日、祝日、年末年始を除く 10:00～12:00、13:00～17:00
- ◆ サポートセンター直通FAX番号：03-3458-9030

最新情報、NetGenesisのファームウェアの提供、ユーザー登録等はインターネットホームページで行っています。

URL：<http://www.MRL.co.jp>

● お問い合わせ頂く際のお願い

お問い合わせ頂く際は以下の各項目について必ずご連絡下さい。

- ◆ お名前
- ◆ ご住所
- ◆ NetGenesisの製造番号
- ◆ パソコンの機種名
- ◆ パソコンのイーサネットボード名
- ◆ 使用回線
- ◆ 契約しているISP名称
- ◆ 具体的な症状(エラーメッセージ等も含め、できる限り詳細に。)
- ◆ 電話番号・FAX番号
- ◆ NetGenesisの機種名(型番)
- ◆ NetGenesisのファームウェアバージョン
- ◆ パソコンのOSおよびバージョン
- ◆ 接続しているパソコンの台数
- ◆ 回線終端装置の機種名

※次ページの「NetGenesisお問い合わせシート」をコピーしてご利用下さい。

● ユーザーズメーリングリストのご案内

弊社ではユーザー様同士の情報交換の場としてNetGenesis ユーザーズメーリングリストを開設しております。(メーリングリストによる、ユーザーサポートは行っていません。)

詳しくは URL：<http://www.MRL.co.jp/ml/nwg-ml.htm> を参照して下さい。

● NetGenesisの修理について

NetGenesisが故障してしまった場合、以下の項目をご確認のうえ、弊社修理センターへ送付して下さい。(修理品送付に伴う送料は、送り主負担とさせていただきます。)

- ◆ 修理品には必ず、使用環境、故障状況等を詳しくお書き添え下さい。
- ◆ 代替機の貸出等はありませんのでご了承下さい。
- ◆ 保証期間中は無償で修理を行います。

ただし、以下の場合は保証期間中であっても有償修理となりますのでご了承下さい。

- ・保証書が同梱されていない場合。
- ・保証書の所定事項が未記入の場合。
- ・誤った操作等により発生した故障や破損の場合。
- ・落雷、火災等の事故により発生した故障や破損の場合。

※本製品を分解または改造を行った場合、一切のサポート及び修理をお断りさせていただきます。

修理品の送付先は以下の通りです。

株式会社マイクロ総合研究所 修理センター
〒140-0004 東京都品川区南品川 2-2-5 清水品川ビル1F TEL:03-3458-9021

NetGenesis SuperOPT-GFive お問い合わせシート(インターネット接続)

お名前 :
(会社名とご担当者様氏名)

電話番号 :

FAX 番号 :

◆契約しているISP名称 / 機器構成	
契約しているISP名称	
使用回線	
回線終端装置の機器名称	
パソコンの名称や型番 / 台数	
OSとそのバージョン	
イーサネットボードの名称や型番	

◆NetGenesis SuperOPT-GFive のファームウェアバージョン 「5-1. ファームウェアバージョン情報とMACアドレスの確認方法」(38ページ)を参照して下さい。	
ファームウェアバージョン	Ver

◆NetGenesis SuperOPT-GFive の設定	
<p>いずれか該当するものに チェックを入れて下さい。</p>	<p><input type="checkbox"/>工場出荷値(何も設定しなかった。) 「症状」、「接続図」をご記入下さい。</p> <p><input type="checkbox"/>フレッツ(PPPoE)簡単設定を行った。 「フレッツ(PPPoE)簡単設定」、「UPnPの設定」、「その他の設定」 「症状」、「接続図」をご記入下さい。</p> <p><input type="checkbox"/>PPPoE マルチセッション機能の設定を行った。 「フレッツ(PPPoE)簡単設定」、「UPnPの設定」 「PPPoE ポート2(セッション2)の設定」、「PPPoE ポート2(セッション2) のスタティックルーティング設定」、「その他の設定」、「症状」 「接続図」をご記入下さい。</p> <p><input type="checkbox"/>WANポートの設定を行った。 「WANポートの設定」、「UPnPの設定」、「その他の設定」、「症状」 「接続図」をご記入下さい。</p>

◆フレッツ(PPPoE)簡単設定	
ユーザー名(ユーザー ID)	
プライマリ DNS	_____ □未入力
セカンダリ DNS	_____ □未入力

◆WANポートの設定(「4-2. WANポートの設定」(29ページ)を参照して下さい。)	
WANポートの動作モード	<input type="checkbox"/> DHCPクライアント <input type="checkbox"/> IPアドレス固定(1~16個)
ホスト名(DHCPクライアントのみ)	ホスト名:(_____)
変換IPアドレス情報 (IPアドレス固定(1~16個のみ))	変換IPアドレス個数:1・2・4・8・16
	LAN側変換後の先頭IPアドレス: _____
「WAN側から取得したDNS情報を優先する」	チェック 有・無
プライマリ DNS	_____ □未入力
セカンダリ DNS	_____ □未入力
サードDNS	_____ □未入力
フォースDNS	_____ □未入力

◆UPnPの設定(「5-4-1.NetGenesis SuperOPT-GFive の設定」(42ページ)を参照して下さい。)	
UPnP機能を使用する	チェック 有・無

◆その他の設定(工場出荷値から変更/追加した設定がある場合にご記入下さい。)

◆症状(できるだけ具体的にご記入下さい。)

◆接続図(接続図をご記入下さい。)

株式会社マイクロ総合研究所

〒140-0004 東京都品川区南品川 2-2-5 清水品川ビル